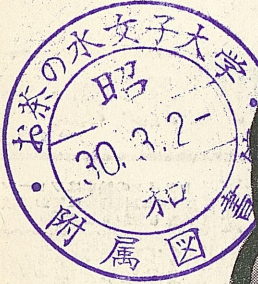
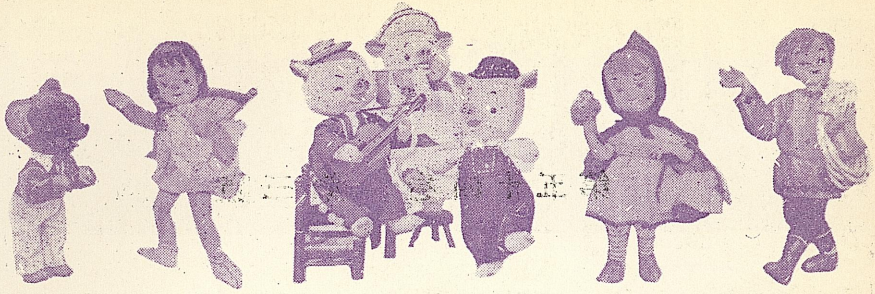


家庭・保育所・幼稚園

幼児の教育

第五十四卷 第三號





絵本 天然色 トツパンの人形

- (1) あかずきんちゃん
- (2) ジャックとまめのき
- (3) ぴーたーとおおかみ
- (4) 三びきのくま
- (5) 三びきのこぶた
- (6) ぷーぼんせんせいのあふりかたんけん

トツパンの絵本はフレール館または代理店にてお取次ぎいたしております。

厚くて丈夫な貼合せ絵本 各100円

トツパン 東京日本橋茅場町1の20・振替東京41647



新 刊 御 案 内

倉橋惣三著

子供讃歌

B六・二三四頁 定価二六〇円

内山憲尙著

インドのお話集

あわてうさぎ

A五・一七六頁 定価二二〇円

村上幸雄編

幼児劇集 はるのひよこ

A五・一七六頁 定価二二〇円

長田 新著

フレールベルに還れ

B六・一九四頁 予価二〇〇円

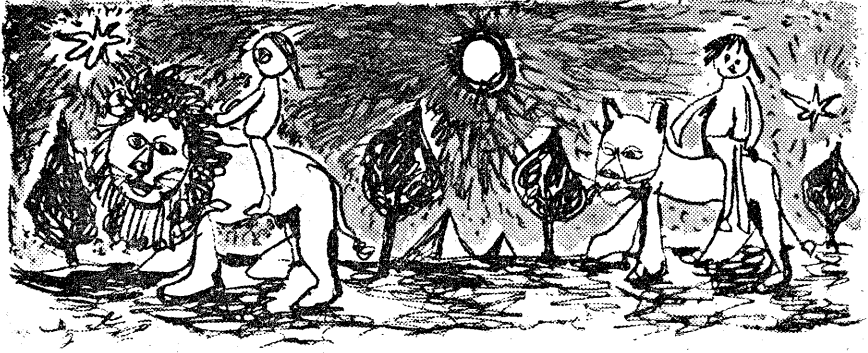
幼児教育のみちしるべとして多年ご好評をいただいております。フレールベル館の保育図書は、永年の歴史と、保育界の絶大なるご後援のもとに、編集刊行いたしております。



株式会社

フレール館

東京都千代田区神田小川町2ノ5 電話東京(29)7781~7785 振替東京 19640



目 次

表 紙 鈴木信太郎

幼児と音楽……………山下俊郎…2

▷組編成のいろいろから浮び上る問題◁

組分けの一つの試みと現状……………村田修子…6

時差通園教育について……………安藤哲次郎…8

一年保育児と二年保育児との

混合編成問題……………竹中京子…10

三年保育の組編成について……………佐々木淑子…12

組編成と担任制の新しい試み……………宮地忠雄…15

自由保育を実施して……………井上季子…18

幼児の科学教育

蒐集について……………太田次郎…24

幼稚園教育研究集会を実施して…玉越三朗…26

▷問題児の生長◁……………土屋真砂子…32

冬の遊び……………山口たつ…36

都心地域の保育……………小津林守操…39

全国幼稚園・保育所教員養成課程募集校一覧……………46

編集主幹
協力委員

倉橋惣三
牛島義友
多田鉄雄

編集主任
及川ふみ
波多野完治

津守 真
斎藤文雄
山下俊郎
(五十音順)



幼児と音楽

山下俊郎

この半年ほど住宅の都合でその両親と同居している孫の日常を観察していると、いろいろと自分の子どもについて気づいていたことを再認識したり、また新しい事がらに気づいたりする。孫はちょうどお誕生に近い頃から音楽に対してひじょうにはつきりした反応を示すようになった。私の子どもについての観察記録によると、十一月でラジオ体操の音楽に合わせて身体をリズムカルに動かして居り、一才ちょっとすぎには歌ってやると声を出してハミングみたいなことをやっているのです、おおよそ一才ごろからこのような音楽に対する反応は出てくるものと考えられる。ゲゼルによると、一才半で自発的にハミングしたり、語節を歌ったりする、また音楽を聞いていると全身でリズムカルに反応するとされている。

孫は十一月で歩きはじめているが、ラジオや蓄音器の音楽をきくと二通りの反応をする。音楽がきこえはじめるるとラジオの前にベタンとすわりこんで上体を前後に動かしながらリズムカルな運動をするのが第一の型であり、第二の型は歩きまわりながら上体を前後に動かすリズム運動をするのである。ところが、昨日はまた新しい反応を示した。家中の者で、ケンプの奏するベートーヴェンのピアノコンチェルト四番のレコードを聞いている

とき、母親の膝の上におとなしく抱かれていた孫は、フォルテの所へくると両手をふりあげ身体全体を動かしてまさに指揮者のような動作をするのである。私共はほほえみながらこれを見ていたのである。

このような小さな幼児の音楽に対する反応は、いうまでもなくリズムに対する反応である。そして、いままで多くの人々が観察しているように、発達的に見て音楽に対する最初の反応はリズムに対するものである。さらにまたリズムに対する反応でも、リズム型の単純な、そしてはつきりしたものに対する反応がよりはつきり現われる。しかし、いずれにしても、リズムに対する反応は、幼児期の可なり早い時期にはつきり現われるということ私達は注意すべきであると思う。

リズムに対する反応はこのような次第で可なり早くから見られるが、メロディに対する反応もすでに前に述べたゲゼルのいうように一才半頃からハミングしたりすることに現われている。したがって音楽に対する子どもの反応は、可なり早くから現われているのであって、音楽に対する子どもの心はずいぶん早くから芽生えていることを私達は知るのである。

このようにして芽生えてくる音楽に対する子どもの心の動きは、恐らく西洋の子どもでも日本の子どもでも変わらないものであると考えられる。私達は外国の子どもについて記載されているのと同じことを、わが国の子どもについても発見するからである。ところが、この尊い芽生えがまっすぐに育てられない所に問題がある。

子どもの心に音楽を育てるのに一番大切なのは、環境である。環境の高さに応じて子どもの音楽に対する心も高められる。このようなことを考える場合に、私達にとつて最も残念なのは、現在のわが国の音楽的環境である。現在子ども達の周囲に流れている音楽は、何ともいいようのないくらい情ないものである。いわゆる流行歌というものが、子どもの周囲に流れている、そしてそれがもてはやされる。流行歌手的な誠にいやな歌い方が、いわゆる童謡歌手にまでしみとおっている。いわゆる音楽家、作曲家という人々が、それで通っているのが何とも情ない。

数年前に文部省で幼稚園のための音楽、リズムの指導書を作る委員会に関係した際に、私も現代の日本の最高の作曲家で文部省の視学官として音楽教育の指導に当たっていて下さる諸井三郎氏の指導のものにいろいろと勉強させて頂いた。その際に、幼稚園の歌唱教材を蒐集して選択するというにも可成りの時を費したのであるが多くの資料を集めると、ほんとに幼児に適する教材というものが少ない。よく歌われているような歌でも吟味してみると声域の点で幼児に無理なものが多いのである。いろいろの条件を限定してみると、ほんとに幼児に歌わせたい歌が少ないのである。しかも、外国のこの種のものを見ると、単純で、健康で、美しいものがひじょうにたくさんある。わが国のものは変にひねくりまわしたようなもの、しかも幼児に無理なような形にひねくりまわされたものが多いのである。そしてこの中で、私にとってひじょうに嬉しく感謝したことは、滝廉太郎氏作曲にいいものがあつたことである。これは私達の子どもの時分にも歌つたものであるが、「水鉄砲」「鳩ポッポ」というようなものが、滝氏の作曲であることを私ははじめて知つたのである。子どもに見せるいわゆる童画を描く童画家には、まともな絵がかけないから童画家になつたというような人々があると聞いて居り、童画家はいわゆる画家よりも一段低い序列にあると考えているような人々があるとも聞いている。情ない話であるが、これとおなじようなことが、童謡の場合にも考えられているのではないかとひがみたくるのであるが、もつと音楽家が子どものことを考えてくれてもいいのではないかと、滝廉太郎のようにいい歌を子どものために作ってくれる人があつていいのではないかと私達は考えざるを得ないのである。

このようなことをいろいろと考えてみると、私達は幼児に与えるいわゆる文化財というものの全体について考えるのと同じことを音楽についても考えざるを得ない。その第一は、幼児保育者自身の音楽に対する教養を高めることである。さきにもふれたように幼児の音楽に対する心をまっすぐに育てるためには、幼児の生活する環境に豊かな高い美しい音楽をみなぎらせることである。そしてこのことを実現するには、どんな音楽を子どもの周囲に流したらいいか、ということについて、十分に選択のできるだけの広いそして高い音楽的教養が身につけてい

る幼児保育者であつてはじめて幼児のためのよい音楽的環境を作ることが出来るわけである。したがつて幼児保育者は、まず自らの音楽的教養を高めることに、何よりも大きな努力を払わなければならないことになる。自ら気づかずして低い卑俗な音楽的環境を作ることのないようにして欲しいのである。

次にさらに第二に、もう一つ望みたいことは、できるならば自ら幼児に与える文化財をつくり出すということをして欲しいことである。幼児保育者は世の中の誰にもまして幼児をよく知る人々である。幼児の生活に即した幼児の生活に根をおろした。そして幼児に最も適した音楽を作るといふことは、幼児保育者のみができるはずのことなのである。しかし、それは音楽的才能を十分に恵まれた人のみができることだといふ人があるかも知れない。たしかにそうではある。けれども私はすべての幼児保育者にそうして欲しいといつてゐるのではない。そういう子どもの為のいい文化財を作る人が、幼児保育者自身の中から出てほしいと願うのである。そしてそのためには、さきに述べた第一の条件である幼児保育者の音楽的教養を高めるといふことが、その前提になることをもう一度考へるべきであらう。

子どもが小さいうちに持つてゐる芽生えを十分に美しく健やかにのびるように力を注ぐといふことは、幼児保育者のつとめである。すべての芽生えがそうであるが、せつかく持つてゐるいい芽生えがのびることをおさえられたり、ゆがめられたりすることがあまりにも多い。音楽に対する子どもの心もまさにその一つである。これをスクスクとのばしてやるために幼児保育者はもっとつとめるべきであらう。

組編成のいろいろ

—から浮び上る問題—

村田修子・安藤哲次郎・竹中京子
佐々木淑子・宮地忠雄・井上季子

組分けの一つの試みと 現状

(同じ年令で年長組と年
少組とを分けた場合)

村田 修子

「幼児の教育」五十三巻十二号にもとりあげられておりますが、「保育をするのに最も適した形」ということについては、保育形態や組編成の方法等問題があることです。これも色々の時代による社会の要求といったこと等や各幼稚園それ自体の職員構成、構造、施設等によつて違つてくることなので、何ともいえないのですが、お茶の水附属幼稚園では昭和二十七年四月入園の幼児から、一つの試みとして、入園してくる同年令の幼児を生年月日順にして二組に分けこの三年間やつてきました。年長の方は各年令とも大体四月から七月位まで、年少の方は八月以後になっていきます。

昭和二十九年度で三才、四才、五才ともそのように分れたわけですが、実のところこう

いうようにはつきりと何かを出すということになると三ヶ年位してみただけでは予想していたこととちがうことになったりして、何についても「こうした結果はこうです」という結論のようなものが出ませんので、日常その中にひたつていながら観察したり感じたりしたことをそのまま書いてみることにします。

以前は年令が平均するように組分けするところが多かったのですがそのときの組のことを考えたり、今の生れ月別に分けられた組をそれぞれ比べてみると、私のもっている年令の少い方の組は、

▽体格が小さくまとまりがない

この年令の半年、一年の差というものは無視することが出来ないものなので、全体的に体格が小さく、それにつれて何といつても気はく、というものが感じられない人の集り、ということをつくづく感じます。色々の生れ月のまざつた組のときは、何か中心になつてすすんでいく力というようなものがあつて、幼い人はその環境の中で生活しているのでそれについて進んでいくことに余り苦勞しないで小さいながらのまとま

り、といったものを感じていましたが、私の今もっている組は、何といても小さい人の集りであるということ強く感じるほど、それぞれがんでに自己中心に生活していてもまとまりというものがなく、年長組になると感じられる組全体の落着きというようなものが、やっと十一月末になって出てきた、という現状です。

しかしこれは年中組、年少組のようすを考えてみると必ずしも小さい組だからとはいきれず、その組を構成している幼児の個性、兄弟関係、大きくは家庭環境というようなものが大変に影響しているので一概にはいえない場合もあるのですが、結局この点では、年令がまざっていた方が子供同志色々の中のひろい経験をする事が出来るといういみでよいのではないか、ということとは強く感じている点です。

体格に伴い健康という面で欠席について比べてみますと、これは割にどちらともいいきれず、それよりその年度により組の傾向として休みの多い組少い組という結果になっているようです。

▽年令的にくっついているのでいろいろの程

度にひらきがない。

これはよい方も都合の悪い方面もあります。

よい方は、お話をきいたりする場合、「そんなのではやさしすぎるとか、むづかしくてあきてしまう」といったようなひらき、というものが比較的少いと感じました。その反面、劇あそび等をする場合、前にいったまとまりというものがなく、恥かしがたり、むやみに騒いだり、ということを経験しました。これもその組の傾向というものがあるので一概にいきれません。

こうして改めて三年間というものをふりかえてみたり、各段階の大きい組小さい組の二組のようすを比べてみると、全体的な傾向としていえる事は前記のようなことだけしか浮んできません。けれど私の組について経験したことをあげてみます。先づ組の構成は三才の時男九人、女八人、幼稚園では手がかかるとか、手をやいてしまう、というのは大体系の子に多いものです。その九人の男の子が一人っ子、末っ子が圧倒的に多かったせい個性がはっきりしていて大体が男のお子さ

んの思い出です。

▽皆それぞれが自分中心に生活しているために、ゆずり合ったりすることが絶対にないで物のとりっことをして衝突することが実に多い。又必要がある場合でも口で解決するというのではなく、先づ手を出すために喧嘩になる。例えば、「あの人と遊びたい」という場合でも、走ってきていきなりドスンとぶつかったり押したりするので、それ方は泣くといった工合になります。

▽つかれるのが早い。これは当然なことですが、遠足等の場合に体力の差というものはとてもはっきりと出てきます。不気嫌になつたり、ねむってしまふ、というのはきまつて小さい人です。

▽すべてに発達がおそいわけですが、面白いと思つたことがあります。それは、毎月一回するお誕生会の時二組一緒におかしをいただきました。よくバタボール等のつるつした固いあめがつきましたが、それをむいて口に入れる際にポロリと床に落してしまふのはきまつて小さい人でした。大きい方の人には一人もいないのに三人―五人位

は落してしまいました。

▽食事は大体揃っておそく、たべよう、という意欲がなく、従って途中でみなどこかへ散ってしまつて、一人つれてくると誰かがいなくなる、という工合で、食事の時は世話というものはとても大変でした。

▽幼稚園ではお子さんでも幾分よそゆきになるもので、いたづら、といつてもたいしたことはいないのですが、常識では考えられないような経験をしました。

先づ食事のとき、何か用事があつて室をはなれるようなとき、帰つてみると、自分のお湯を他の人のおべんどうの中に注いでしまつたり、お弁当置場について誰かれもかまわずおはしを出してとりかえてしまつたり、小つみ木を室からもち出して男のお手洗の穴の中に入れてしまつたり、実に何もいえず泣きたいようないたづらをよくしました。

こう考えてみますと、この三才という時期は、大きい方、小さい方と分けることは先生の負担というもの、子供の経験の中というものよりも影響が大きいことを感じました。その次の年に男十人、女十一人が新しく

入つてきましたが、その年令では、前の年とは反対に子供が広い経験（知識的なことより特に社会性の面）を得ることが少ない、ということを感じました。

年長組になつてからは、その差というのものが段々狭くなつてはきたような感じですが、毎日を見てみますと、遊ぶ友達に大きい組の人を選ぶよりも、年中組の大きい組の人たちとよく遊ぶことも、そこに何かあるのではないと思われまふ。

することも大体大きい組の人がしたことを順々にあとをおつてしているようです。このように同年令の人達と余り遊ぶことがないので、意識的にそういう機会をもたせるためそれには先づ先生が親しみを持たなくては、ということと、一組が孤立してしまわないためにという気持で組を交換して三日ほどもつてみました。

その結果としては、お茶の水のように一部屋が一幼稚園というたてまえで設けられた形のところではそういう気持はもつていても一部屋で大体の用が足りるため交流する機会が少い。ということを感じました。こういうことも色々方法が考えられることですが、そ

れはさておいて、このように書いてみますと別にかわつたこともなく、子供の発達上の特質ともいふ分りきつたことばかりになつてしまいました。現在の状態からいつて年令別にしたことと特別に困つた点も悪い点も反対に都合のよい点もあがつてきてはいないようです。前にいつたように子供の経験、先生の負担という点からいへば平均されていた方がやり易いということはたしかにいえまふ。

前にも「その年の傾向その組の傾向」という言葉をつかいましたが、それは私のもつた一番始めの組がとも手がかつたのに反し次の年、更に下の年令の組に於ては必ずしも小さい人の集りの方に手がかかる、ということはいききれない現状にあるからです。

（お茶の水大附属幼稚園）

時差通園教育について

（二部制保育）

安藤哲次郎

特権階級と称する一部の人たち少教の幼児

収容の幼稚園は、そして幼稚園から入学した児童は、こましゃくられた、人ずれ、学校ずれし仕末に困る、と口にされた幼稚園小学校教育も、もはや昔語りの一こまに過ぎない時代になった。

入学前の幼児教育の如何に重要かを痛感する教育現場の先生方の幼児教育に対する研究理解と真実さによって、又父兄の幼児生活と幼稚園教育の理解によって現在公立のどんな幼稚園も収容しきれぬ狭き門を呈する状態。

私は幼稚園も小学校同様希望者の全員を無条件に収容出来るようにありたいと念願している。入園条件として所謂入園試験をする。収容能力に限度がある以上、こうしたことは方法の如何は別として止むを得ぬことである。

う。しかし私は、このここにも考えさせられる幾多の事実を見聞したので申込順によることにした。が希望者の父兄は「ぜひ入園させたいの一念で申込受付日の前夜より並び、なかには自家用車に乗りつけ、その中で一夜を明かす人もある熱心さ。受付当日の受付開始時午前九時前、午後五時頃には収容人員の二倍以上の列が出来る有様。教育の第一線の現場をあずかる教育者の良心的責任から又学校

経営の責任者として果たしてこのままで放置してよいのだろうかと強く考えさせられた。全員収容するには十分な園舎が必要となる。猫のひたい程の土地すら見当らぬ土地柄。とても園舎の新築、増築などは思いもよらぬ。

又入園出来ぬ幼児たちは日一日と激増する無茶と思われる交通量の危険にさらされながら道路上で遊ぶ。或は小さな路地で不健康な遊びの中に放置されている姿を見てこの幼児たちに入園希望のかねえる園舎があつたら、こんな危険、不健康の毎日を繰返さずともよいのに——と頭一っぱいに考えさせられるのであつた。

私はなんとかしてこのゆきづまりを打開せしめて希望者の内の一年保育児だけでも全員収容してこの状態を打開しようと考えた。しかし現在以上収容能力のない場所柄の今、第一に考えたのは所謂午前組、午後組の二部制の編成であつた。

しかし園児がお弁当を入れた小さなバスケットを持参して幼稚園にかよう喜びと希望を考へて見た時、又園児の在園時間を他の幼稚園と比較して減少しないことを考慮に入れた時に此処に考えさせられたことは昨年度より

実施して来た、「時差通園」である。

即ち第一班（三学級）と第二班（三学級）にわけ、第一班は小学校と同様の時間に、第二班はそれより一時間半おくられて始業。帰宅時間は時差の一時間半により、第二班はそれだけ第一班よりおくられて帰宅することになる。

しかしこのことは、小学校、幼稚園併設の関係からして両者の先生方の、幼稚園教育、小学校教育、特に小学校入学前後の幼児教育に深い連絡と理解と及び真剣な研究が必要とするのでなければ完全な希望の実現は期待されない。

此点私どもは幼稚園、小学校の先生方の校内に於けるの日常生活に区別しないで来ている。幼稚園を主とした研究及び行事でも学校側も全員参加し、小学校側の場合も同様幼稚園は全員一体となり進める。又職員室も職員会も或は児童会、地域別母の会（校外生活指導を主とした）等にも両者一つになつてその指導にあたる——といったように、校内外における幼、小両者の日々の生活指導組織には変りなくしていることが、こうした特例な仕事をしに行くに最も必要な基ばんをなすもの

ではなからうか。

こうした相互の理解と連繋により幼稚園側の一班、二班全員集合した際の不足した教室の遊び場の使用は校庭、屋上、講堂、工作室、理科室、音楽室、図書室等の使用が小学校側との打合せの上に時間割が編まれ、幻灯に、映画に、音楽に、遊戯に、工作にと小学校の特別教室は、フルに利用するようにした。小さなバスケットに入れたお弁当を食べるのが最も楽しみらしい園児は、前班組は少し早めに普通教室でとらせる。その間に後班は前述の特別教室を使用して音楽に、幻灯に、紙芝居に、工作、遊戯に楽しんでいる。

前班の食事が終ると後班の食事と代って普通教室で行われる。この時刻は小学校側の給食時の終りに相当する。

こうして交互に教室を利用し、小学校との連けいによって教室使用のスケジュールが編まれ、三つの普通教室が二・三六名の園児が、六人の先生によって一週間交代に行われ、本園の地域性による幼稚園教育が続けられて行く。かくして園児の在園時間は他の幼稚園とも大差なく園児教育が続けられている。

又先生方の時間的の労力も他園の先生方と

も大した差もなく、これまた毎日続けられている。幸いに幼稚園の桜井、並木、岡山其他の先生たち格別の努力と小学校側先生方の、幼稚園教育並びに現状の校舎状態からしての深い理解と研究、並びに両者一体となつての人の和により特別取上げられる程のまさつも生れず、特例の「時差通園の幼稚園教育」が進められていることは、私にとつてほんとうに嬉しい有難いことである。

父兄側も殊の外にこの意図する私たちのことを信頼と理解を持ってくれている。

むしろ参観に見える先生方が私ども念願とする、ことに反したヒントはずれの御批判を載き苦笑を禁じ得ないこともある。

誰しも不自由のない場と、充実した設備とこいねがわれない者はない。しかし如何様にも解決出来ぬ悪条件の状態を少しでも、こくふくしてゆこうとする情熱と努力が最も望ましいことではなからうか。

要は小学校、幼稚園両者の教育に対する情熱と深い理解と、人の和によって難事とするところも、解決されて行くのではなからうかと私は信じている。

(東京 千桜小学校長・同幼稚園長)

一年保育児と二年保育児との混合編成問題

竹中 京子

大和郷幼稚園に於きましては、二年保育を主体としておりますが、一年保育の希望者も若干ありますので、希望者の中から選考して二年保育児の総数七〇名の四分の一にあたる約二〇名程度の補欠園児を加えて保育致しております、総数一四〇名のうち九〇%迄が会社、学校、官庁等に勤務している家庭より通園しておりますので、二年保育に規定するところも出来るわけですが、幼稚園の所在する環境によっては、家庭の職業や、家族の関係からむしろ一年保育が主流となることも大いにあり得ますので、組の編成問題に就きましては、いろいろ苦心、研究を要するところであろうかとおもいます。最も進んだ方法の一つとして、生活年令によらず徹底したグループ

教育を実施しておられる向もあるようですが、再建して二年を経ない当園では、限られた施設を活用する外に途がありませんので、理論的に理想な型をうち出す迄には至らず、いづれも折衷的にならざるを得ないのであります。それだけに指導者の負担も大きいということになります。短い経験ながら実際保育について左に述べてみたいと存じます。

二年保育児の年長組に一年保育児を混合させますことは、どうしても無理を免れませんので、入園に際しましては、選考の場合特に体力的、知能的に積極性に富んでいて、年長組に編入致しても一緒に生活してゆけそうな幼児を目標におきますことは、止むを得ません。入園後に於いては絶えず家庭と連絡をとって、園児の疲労、負担などには特に注意し観察しております。

年少組の入園当時に於いて保育者が園児に對し扱っている当然の細々した注意は、年長組の二年目になりますと、幼児自身が自覚するようにになり、完全に園の集団生活にも慣れてきて、かなり組織づくられてまいります。したがってグループ活動も盛になり、漸次内容的なものを理解したいという意欲を現して

まいります。外からの干渉を嫌わしく考えるようになりますので、保育側に於てもそれに順応した指導が特に重要となつてまいります。そこで、そのまゝのことを新入園児に行えば不親切なこととなり、ひいては、二年保育の年少組が始めて入園した時のように、幼稚園では生活に入りきれない為に行動も控え目になり、それが反動として帰宅後急に元気がでるという現象を呈する様になります。極端になれば、幼稚園に興味を失つてしまつて通園することを好まぬ状態となります。

この二元的指導を実行する為に、非常に苦労することになりますので此の点充分考慮して幸福であるべきこの幼児のこの時代の取扱について深い研究を要する必要があるかと存じます。

生活年齢が同じであり、家庭環境も同じ状態なのになぜこのような欠かんが生ずるかということは、グループ生活に入れてもらうことが出来ないという子供達にとつて一番大きなさびしさが五才児の年齢となりますれば感ぜられるように思います。

グループ保育にかけた欠かんが如何なく現

われたためともいえましよう。

然しながら八ヶ月近くを経過した今日混合編成の中にある園児については、殆どその差が認められないまでに至りましたのでその一例を挙げまして御参考に致したいと存じます。一週に一回年長組、年少組、とに別けて専門の先生をお招きして、音感リズム反応を実施致してまいりました。

当園の知能指数の平均一二〇が標準ですがその中に最高一六〇を示す幼児と最低七〇の開きのものと同クラスに指導されてまいりましたが現在では殆ど他の幼児と変らぬ状態となりましたこれについては、テストの方法にも幾分問題が残っているかも知えますが、何と申しましても、保育者の公平なる不断の努力が最も有力な要因であることは、言う迄もありません。

組の編成につきましては生活年齢によらず全体を通じて、音楽リズム絵画、製作、談話観察、等のパートに分けてグループ保育を実施されているところもあり又、年長一年保育児だけ別に一クラス編成されているところもあります。前記の通り当園では設備その他の関係から年長組に混合させて保育致してお

ります。然し週に二回位は組を離れたグループによって遊戯や其の他を指導して一斉保育の害を除くことに努め、又、其の反面一種の劃一的な指導によって集団訓練を積ませてみておりますが、園外保育、遠足等の場合に非常に大切に役立つように思われます。

充分なる意見を申上られませんが誠に残念に存じますが、今後これらについて実験的な調査を継続して正しいあり方について努力致し度いと存じております。

(大和郷幼稚園長)

三年保育の組編成について

佐々木淑子

三年保育の組編成には、いろいろあると思えますが、ここでは私共の幼稚園で現在行っている編成を説明し、現在、その編成の三年保育を受持っている者の立場から、感じていることを述べたいと思えます。

○編成

現在の三年保育の幼児数は、男児十五名、女児十五名、計三十名で、男女児共各々生年月日の早い者と遅い者に二分し、

森の組は、生年月日の早い方の男児八名と女児七名（四月―七月生）計十五名。

池の組は、生年月日の遅い方の男児七名と女児八名（七月―三月生）計十五名。

の二組に編成しております。

担任は各組一名となっております。

○生年月日による組編成の長所と短所

マ一般論から言って、年令の小さい幼児ほど、年令の差によって、身体發育の上からも能力の点でも、社会性の面でも、発達度の差が大きいものでありますから、同じ三年保育の幼児でも、四月生の幼児と翌年三月生の幼児とでは、一年の年令差に伴って、発達度の差は大きいものであると言えます。

生年月日の早い方の組と遅い方の組にわけられた幼児と一番遅く生まれた幼児との年令の差がずっとせばめられるので、それに伴って

発達度の差もせばめられるために、発達に妨じた保育がし易くなると考えられます。これは保育者の側から言える長所でありますが、幼児の側から言っても、組の中のおともだちが大体同じ発達程度にあるので、幼児なりの劣等感をもつこともなく、安定感をもつていられると思われれます。

このような長所が考えられると同時に、同じ程度の幼児が集まるために、発達のおさない者が、発達の進んだ者から啓蒙されたり、よい意味での刺戟をうけたりすることが少くなるので、おさない者はおさないなりでとどまってしまうのではないかとこの心配も考えられます。

マ実際に、生年月日による組編成で保育をして、一般論から言える長所が、果して実際にもあてはまるかどうか考えてみますと、身体發育や能力の発達の上では、生年月日によって組編成をする意義がみとめられると思えます。種々の面で二組を比較すると、次の表の通りに差がみられております。

社会性の発達の上では、現在の三年保育の幼児では、年令による差はあまりみられないようです。社会性の発達は、家庭環境や、入

身体發育測定値 (身長・体重)

		4月平均	4月最高	4月最低	10月平均	10月最高	10月最低	
身長	森の組	男	100.0	105.9	94.3	103.3	110.1	97.3
		女	96.3	100.9	91.1	100.1	105.6	94.9
	池の組	男	94.6	100.1	88.3	97.3	102.6	90.3
		女	92.2	97.7	88.8	95.5	101.7	92.0
体重	森の組	男	15.4	17.3	13.8	16.6	19.0	14.8
		女	14.2	16.7	13.4	15.6	18.6	14.2
	池の組	男	13.6	15.8	11.0	14.6	16.8	12.0
		女	13.7	16.4	12.5	14.5	18.1	13.8

スキップの出来ない者

		4月	5月	6月	7月	8月	10月	11月	12月
森の組	男	7人	4人	1人	1人	1人	0人	0人	0人
	女	1	1	0	0	0	0	0	0
池の組	男	4	3	3	3	3	3	0	0
	女	5	3	2	2	2	1	1	1

体力測定値 (男女別組平均値を表す・10月実施)

		立	巾跳	懸	垂片脚跳	ボール投	二五米疾走	荷重運搬
森の組	男	98	分秒	1.33	25.6	5.0	7.4	4.2
	女	85	分秒	1.26	25.9	3.4	8.1	5.0
池の組	男	82	分秒	1.25	16.5	4.2	7.9	4.6
	女	78	分秒	1.07	15.2	2.5	8.7	5.0

する意義はみとめられないよう
です。

○大きい組(四才児及び五才児
の組)と一緒にすることにつ
いて

現在は、大体一組だけの保育
をしておりますが、自由遊びの
時はせんに大きい組と交流し
て遊びますし、他の場合にも、
大きい組と一緒にしてみること
もありますが、大きい組と一緒
にすることについては、次のよ
うなことを感じております。

大きい組と三年保育の組が一
緒に遊ぶことは、大きい子供の
側から言うとは、大きい子供の可
愛がったり世話をしたりする気
持を養う意味でよいことである
し、小さい子供の側から言うて
も、大きい子供と遊ぶうちに、
自然に遊びの方法を覚える点等
でよいことであると思いますが
実際にやってみて困る点も多
く出て来ます。

園前からの家庭での仕向け方に影響されると
ころが大きいように思われ、個人差が大きく

年齢による差はみとめられませんが、社会
性発達の上では、生年月日によって組編成を

みて困る点も多く出て来ます。

入園当初排尿が一人で出来なかつた者

森の組	男女	0人
		1
池の組	男女	2
		2

入園前はさみき使つたことのない者

森の組	男女	1人
		1
池の組	男女	0
		3

錯画をかいている者

		4月	10月
森の組	男女	1人	0人
		0	0
池の組	男女	4	2
		2	0

大きい子供が、小さい子供を可愛がり、世話をやきすぎるために、小さい子供の自由が失われる。

大きい子供に遊ばせてもらう立場に立つために、自分で遊ぶ習慣がつきにくくなる。大きい子供の乱暴な遊びや、よくない遊びを小さい子供が分別なく真似る等。

製作・音楽リズム・お話等を一緒にすることとは、程度が非常に違うので無理なことだと思ひます。大きい組の子供達がたのしんでいる雰囲気を見て、何となくやりたくなるような気持を、小さい子供におこさせるために見せる程度で、能力の程度も違い、それに伴う興味も、その持続時間も違う大きい組と

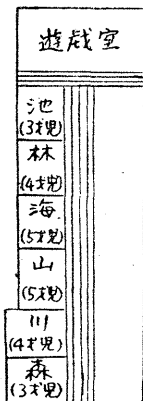
一緒にすることは不適當なことで、それではわざわざ生年月日によって組編成をする意味がなくなると思ひます。

入園当初、大きい組の子供に遊んでもらったり、大きい組がしているのをみたり、一部の仲間に入れてもらったりすることは、幼稚園というものに馴れさせるために有意義なことと思ひますが、すっかり幼稚園に馴れて、自分達で遊べるようになった頃には、大きい組と一緒にすることよりも、三年保育の二組と一緒にする方がいいのではないかと思ひます。

〇三年保育の二組を一緒にすることについて

入園当初は、小人数でまとまっている方が幼児も落着けるし、先生の手も行き届くと思ひますが、幼稚園生活にも馴れて、自分達で遊べるようになった頃には、一組十五人ではおともだちも限られてしまいますし、十五人のうちの一人の影響は非常に大きく、組の傾向が一人の子供の動きで左右されるように感ぜられますので、三年保育の二組を一緒にする機会もあつた方がいいと思ひますし、三十人の組にして二人で保育することも試みたいと思つております。

私共の幼稚園では、三年程前から、別の観点から考へて、保育室の配置を図のようにし



ておりますが、今述べたような点から考へると、三年保育の二組をならべて配置した方がいいように思ひます。現在のように、三年保育の二組が、幼稚園の両端に離れていても、大きい組に遊びに行くよりも数多く、お互にもう一方の三年保育の組に遊びに行くし、何

となく同じ年であるという親しみをもって、
るようですので、保育室が隣同志であつたな
ら、もつと交流もうまくいくようになり、生
年月日による組編成の短所もおぎなえるので
はないかと思つております。

(お茶の水大附属幼稚園)

組編成と担任制の新しい

試み

(協力担任制)

宮地 忠雄

一、はしがき

組編成とか担任とかといったことは、多く
の場合、園長や校長の関心を持つことであり
先生方は、形成された枠内で、その経営や運
営を研究するという傾向が強い。

園長や校長は、組編成や担任制については
人事の面としては種々工夫をこらすが、その
形成面については、前から行われている方法
を踏しゅうして、みだりにその形式を変える

ようなことをしないというのが普通のような
ある。

であるから、環境の構成とか、単元の展開
とかといったことについては、多方面に涉る
実験データーが公にされているが、組編成と
か担任制といった面については、比較的新し
い実験が少いようである。

私の学校の実験は、昨年度から着手され、
今年度さらに、その計画を前進させたもので
あるが、まだ的確にその評価をしていないの
で、実験結果を発表するという段階にまで達
していない。

ここには、どのような方法で新しい試みを
しているかの一端を述べてみることにする。

二、一般の組編成と担任のし方

◇組編成のし方は、常識的に考えて

1、固定制—一年で編成したものを六年卒業
するまで変えない。

2、組がえ制—学年進行にしたがつて組がえ
をするもので、

* 一年毎に

* 二年毎に—低、中、高の学年の変りめに組
がえをするもの。

* 三年から四年に進むとき、あるいは四年か
ら五年に進むときに組がえをするもの。

等、種々あるが、二年毎に組がえをするが
多いようである。

の二つに区別され、1、より一般に2、の
方が多く採用されている。

その理由は、

* 交友の範囲を広くし、だれとでも親しめる
ようにする。

* 学級間における不当な競争や対立意識を除
く。(学級固定制では、ともすればこの傾
向が強くなる)

等が考えられる。

◇担任のし方も、まず組編成と同じように

1、持ちあがり制—一年から六年まで一人の
担任が持ちあがっていくもの。

2、交替制

* 一年毎に

* 二年毎に—低、中、高の学年の変りめに、

* 三年から四年に進むとき、あるいは、四年
から五年、または、五年から六年に進むと
き。

等があるが、二年毎に担任替をするのが多
いようである。

の二つが考えられ、これも、1、より2、が多く採用され、その中でも、二年毎に担任をかえるという方法が多いようである。

その理由は、

* 担任固定制では、一人の教師の長期間に渉る人格的影響が大きすぎる。―その教師の長所、短所、興味の傾向、研究学課や特技等が児童に強く影響を与える。

また、児童と一教師との過度の結びつきは、他教師との関係に疎外を生じ、教育の全体計画に支障をきたす。―児童が受持の先生のいうことは聞くが、他の先生のいうことを聞かなくなる。

* 一年毎の交替では、教師と児童との結びつきは浅く、児童の学校生活は不安定。また教師の児童理解も不徹底。

* 低、中、高で担任をおさえると、低学年担任(中、高も同じ)は、その学年の指導について経験と研究が深まる。

等々が考えられる。

以上の組編成と、担任制の組合せによって実際には幾多のタイプが生まれ、多くの学校はそのいずれかに属している形である。

三、新しい試み―協力担任制―

私の学校で新しく試みている方法は、以上に述べたどのタイプにも属さないものである。それは、協力担任制とも称せられるものである。

私の学校は、学年二学級編成男女共学である。そうして、学級担任のほか、教科担任(専科の教師)が多数関係することになっている。この枠の中で考えだされた協力担任制と組編成の仕方の概要は、つぎの通りである。―第一学年(昭和二十九年度入学)を中心に述べる。

◇担任のし方

1、一人の担任を一学級に固定しないで、男女二人の教師で一学年二学級の担任とする。

* 学級担任制ではなく、男女二人の学年担任制

2、学級事務は二人ですべて共同負担。生活指導の面も二人共同してあたる。しかし、朝の話しあい、給食指導、下校前の話しあい等は、一応、一月交替で学級を分担してその指導に当る。―入学当初から九月の

終りまでは、児童の適応の状態を考慮して月毎の交替はしなかった。

3、保護者会。保護者面接等も二人で共同して運営する。

4、教科の担任のし方は、

* 国語、社会―文科系担任(男)

* 算数、理科―理科系担任(女)

二人の担任は、両学級の四教科を同時数を受持つ。

* 音楽―専科教師、両学級へ同時数出る。

* 体育―男、女二人の体育の専科教師、両学級へ同時数出る。そのほか受持の教師それぞれ一時間出る。

* 図工―男、女二人の図工の専科教師、両学級へ同時数出る。

一児童あたり指導教官数

担任二人(国語、社会、算数、理科)

専科教師五人(音楽一人、体育二人、図工二人)計七人、

ということになっている。担任教師二人を中心にして協力して指導に当たるといわけである。

5、原則として学年担任、教科担任は、協力して、六年まで継続して持ちあがり、その

指導に当る。

◇組編成のし方

1、学級は、二年級とも同数の男女共学。

2、第一学年は、十月第一月曜日をもって組

の編成がえを行う。→入学当初は「あいし

えお」順に並べ、一人おきに学級区分をし

た。十月には、身長順に並べ、一人おきに

学級区分をした。

3、第二学年以降は、学年の変わりめ毎に編成

がえをする予定。→一年一回か、一年二回

にするか、目下研究中

四、その評価

このような協力担任制を試みたねらいは、

1、児童に固定学級や担任の意識を持たせな

いで、できるだけ、たくさんの友だちや教

師に親しませるようにしたい。

2、行動範囲や、人間的つながりを広くして

広い社会的視野を養いたい。

3、男、女の教師の影響を、児童にできるだ

け同じように与えたい。

4、学級や担任の固定によって、ともすれば

生じやすい学級間の不当な競争（児童、保

護者、教師ともに）を、なくしたい。

5、同一学年の児童の発達を同じ条件で評価

し、その成長、発達の過程をできるだけ客

観的にとらえたい。

等々にある。

研究をはじめて、一年にもみたくないの

その成果をまだ適確におさえることができな

その成果をまだ適確におさえることができな

前略 現在のような学級編成のし方や担任のし方について御感想を左記によって御記

入の上明二十一日（火）担任に、御提出ください。

十二月二十日

保護者 殿

◇記入の方法

イ、1、2のうちよいと思うものに○をつけてください（番号は）

ロ、理由は（例）を参考にして、どんなことでも御気づきのことを簡潔書にして書いてください。

ハ、理由を書きにくかつたら無理にお書きにならなくてもよいです。

ニ、氏名の記入は御自由

その理由

その理由

その理由

その理由

その理由

その理由

その理由

その理由

その理由

その理由

いが、従来の学級編成や担任制に見られるへ

い害を除去し所期の目的を達することができる

という見通しを持つことができるようにな

ったことは喜びたいと思っている。

十二月二十日、つぎのようなアンケートを

一年担任

御感想を左記によって御記

御提出ください。

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

一年担任

保護者に渡し、この新しいシステムに対する
評価の資料としたが、

回答数 七五の中

可とするもの七一

否とするもの四

で、約九五%が、この方法を支持している
ことがわかった。

保護者の述べた支持理由をのせる紙数がな
いのは、残念であるが、私たちは、保護者の
強い支持や、児童たちの喜びに満ちた学校生
活に強い確信を得て、さらにこの研究を進め
たいと思っている。

さいごに、この方法では、

1、担任教師の調和(教科、性格等)が得ら
れないと問題が残る。

2、一人の教師が百人もの児童や保護者の指
導に当らねばならなくなるので、肉体的に
も、時間的にも、そうとう負担になる。

3、担任教師の一方が変ったとき(転任等)
新任の教師に対して児童や保護者がどのよ
うな態度をとるか(一方に残った担任がい
るので、どうしてもその方との結びつきが
深くなるだろうと思われる)問題があり、
その面から協力担任制にひびが入らないか

心配である。

等々問題があるが、それらについては、また
別の機会に述べることにする。

(お茶の水大小学校)

自由保育を実施して

(組解体保育)

井上 季子

一、自由保育を実施するまで

「自由保育か一斉保育か」という問題につ
いては、昭和二十七年度文部省主催近畿研究
集会において、学習指導の改善に関連して取
上げられた。近畿地区の出席者から、それぞ
れの意見が続出し、理論的なそとわくだけは
つかみ得たのであるが、これを各地の幼稚園
において、実践してみることが一つの課題と
して残されたのである。当時我が大阪市にお
いては、すでに市立貫江田幼稚園が新しい試

みとして、自由保育の研究に乗り出し種々のデ
ーターを出していられた。そこで私はこれを
一つの資料として研究集会に自由保育を提唱
してきたのである。

自由保育と一口にいつても、園の施設、設
備、職員組織、幼児数、等により、その方法
はいろいろである。自由保育形態のサンプ
ルを出すことはきわめて困難であり、またそ
うすることは保育をわざわざいさせる危険性が
多い。大阪市は研究集会の直後保育形態の問
題について度々研究集会をもった。そして長
所短所を各園の状況とにらみ合せて討議し、
教育目標に合致した保育活動を展開してい
くように、努力したのである。

大阪市では貫江田幼稚園の他に、二、三の
幼稚園が此の形態を取り入れ、多角度からそ
の良否を研究してきたのである。多くの園は
これを良しとしつつ、尙此の形態を取り得な
い現状である。そこで前進への手段として自
由保育の長所を織りこんだ一斉保育を試みて
いる。

自由保育は理論的に考察して良いという事
を二十九年度の保育学会において貫江田幼稚
園長を始め、各方面の権威者のひとしく推奨

されたにもかかわらず、なお一斉保育を捨てきれずにいることはどうしてであろう。大阪市では二十九年七月再び全市幼稚園研究会で此の問題を取り上げ精細に其の難点を分析したのである。以下それをあげてみると、

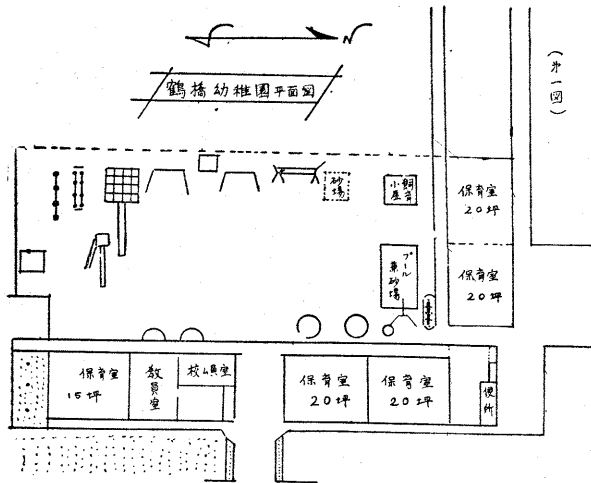
- 1、幼児と教師との心のふれ合いが少ない。
- 2、人数が多いと、幼児の個に即した指導に理解がともなわれないことがある。
- 3、保育の指導と記録の両立が困難である。
- 4、単元の展開がスムーズにゆきにくい。
- 5、幼児の生活に片寄りができるように思われる。
- 6、集団生活に必要な種々の躰ができていない。

これに対して実践園においては5、6は記録の上に、又幼児との生活の上に其の心配はない。との確答があり、自由保育の長所をあげて、一斉保育をしている所こそ、行動記録がとられていない現状を指摘された。

本園は自由保育形態を何等かの形で実践してみたいと念願してきた。又近畿研究会でこれを提唱してきた責任もあるので、色々研

究したが左の難点にぶつかつた。

- 1、教師間の円滑なチームワークが絶対に必要である。
- 2、せめて一室でも余分の部屋がほしい。
- 3、全教師が自由保育の必要性を熟知し、これに対する積極的な意欲と、これを効果的に展開する技能が必要である。



こうしてためらうこと二年、本誌第五十三巻第九号に掲載された保育学会における一斉保育と自由保育のシンポジウム の要旨を讀んだ。そのなかに守屋光雄先生が「自由保育を行うためには、あらゆる困難を打破し、且改善してやらねば幼児保育の重任が果せないという旺盛な意欲こそ必要である」と指示していらつしやることにより、勇を鼓して二十九年十月より実施にかかつた。以下八週間約二ヶ月間にわたつて行つた自由保育の概略を記してみる。

二、自由保育の実施

1、本園の施設設備（第一図）

木造一階、保育室五室、内二室は獨立てを取り広くできる（四〇坪）
 余分の部屋はないが自由保育の環境としてはよい方である。

2、組織

園児、二百二十三名、五組、全部一年保育児職員、補助職員を併せて六名 校務員、二名

3、実施までの準備

A、自由保育実施園の參觀

- B、研究会を数回持ち、左のことを定める
- a、単元は前半を運動会、後半を秋の野山とする。
- b、保育案の形式は独自のものを作る（第二図）
- c、記録については、家庭に連絡し、幼児

(第一圖) 日 空					週 案	
月	第	週	日	曜		
2	1	12	11	10	9	
					幼稚園	月 月
					幼稚園	火 火
					幼稚園	水 水
					幼稚園	木 木
					幼稚園	金 金
					週 日 休	
					週 評 價	
					責任者印 園長印	

のエプロンの襟に紐と名前をかいて縫つける。記録簿は半紙一枚を用い、全園児一日の動きをパート別に一枚のものに入する、九時半、十時、十時半と自分の受

音(絵)			音(絵)			音(絵)			音(絵)			音(絵)		
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名

(第二圖)

- 持つパートにきた幼児の遊びを記入、午後組別に分け担任に渡す(第三圖)
- d、パートは二つにわけらる。
- 音楽リズム体育あそび
- 音楽リズムの他にブランコ、雲梯、シーソー、ジャンクルジム、滑り台、攀登棒其の他の競技、球技、又はそれに類する体育的な遊び。
- 絵画製作構成あそび
- 絵画製作の他に積木、ままごと、砂場、等幼児の構成意欲を満足させる遊び一切
- 職員はパート三名つつ、各自の研究に全致して定める。内二名は指導、一名は記録。
- 記録は一週間の輪番制とする
- e、保育室
- 余分の保育室がなかったため、食事の部屋の上、全部の机、椅子を二部屋に入れる。他の二室は広い部屋とし午後の保育、雨天の保育、其の他庭に持ち出せない絵画製作、ピアノ使用の音楽リズム指導のための部屋にあてる。残り一室は各組の遊具全部を入れ、玩具の部屋とする。

時 9	登園視診
30	興味中心の自由保育
10	この時間に意図する单元をもる
30	
11	後かたづけ 休息 レコード鑑賞
30	清潔しらべ
12	昼食 静かな自由あそび
30	お話 紙芝居
1	劇あそび ことばあそび
30	今日の反省 明日の計画
2	話しい 帰宅

(第四図)

f、一日のカリキュラムは大要第四図の通りにする。

幼児帰宅後、毎日の保育の反省と、明日の打合せをし、記録の整理をする。

以上細部にわたり協議し、なお指導者の意見をきいてできるだけ無理なく自由保育を行いたいと念願した。

4、実施状況

職員は始業三十分前より保育の場を構成する。幼児は登園すると構成された場、或は自己が遊具を持ち出して、構成した場で自由に

活動を始める。全幼児の旺盛な活動が展開される九時半より記録者は自分のパートに属する遊びの場をたどり幼児の行動を記録する。これは大体半時間で一巡し、十時、十時半、と三回幼児の動きをとらえる。幼児の活動は秋の最も気候のよい時であり、其の殆んどが屋外で行われ、広い部屋で用意された遊びには参加する子が少なかった。十一時になるとレコードにより後片付けをする。全員片付けがすめば好きな場を選んで休息をしつつ、レコード鑑賞をする(約十分)。此の後マイクを通して其の日のうたのおばさん(テープレコーダーによる)をきいたり、一緒に歌を唱ったり、又集会をして自然、社会事象の話し合いをする。清潔調べも大体此の時に進行。昼食は全園児が二部屋に分れて行う。人数が多く稍混雑をするが、仲良しの友達と、又いつも一緒にでない先生と食事をするのは非常に楽しいものらしい。食後から〇時半、或は一時頃まで静かな遊び、其の後帰宅までは二つのパートに含まれないことばあそびを中心に言語表現の面を多くとり入れた、たのしい一刻

がもたれる。一時半から今日の遊びの反省と各パートの責任者による明日の遊びの計画が幼児との話し合いにより定められる。但し半日保育の場合は休息の時の時から広い部屋に入り、明日の話し合いをして帰宅する。以上本園の自由保育の概略をのべたのであるが、八週間を通して組別扱いをしたのは園外保育の時だけで、他は終始組を解いて興味中心のグループ保育を行った。

三、自由保育を実施して

長い間の懸案であった自由保育は終わった。担任は組に帰ってきた幼児を一人一人胸の中へだぎしめてほおずりしてやりたいような気持ちになった。此の時一番大きい問題として残されている「自由保育は是か否か」の反省会を指導者二人を招いて開いた。反省記録は常に自由保育を評価しつつ、幼児の活動の変化と教師の配慮のあり方を批判して記入してきた。これをつづり合せると反省録となるが、それを理論に照し根本的な解明を与えるために重要な点を拾い出してみる。

長所

①自主自立的になる

上から与えるものが何もない。唯場の環境が幼児に働きかけるだけである。教師は誘導するが強制しないからその抑圧から開放され、自然に自主自立的になる。即ち身近なものに何等かの遊びを見つけて工夫創造し、自主自立的の態度が生れる。

②遊びのグループの人数が多くなり意図的に計画的に、又相互の協定により、遊びが継続性を持って発展してゆくようになった。

③交友関係が円滑になり、社会的領域が広がる。これは組に帰ってからもよく交流して遊びや作業を行うことよってしられる。

④社会的要求とか、環境に対する適応性が養われる。場の設定が変化をもち、又自由にいろいろの場に参加し得るからである。

⑤戸外保育を主としたため、身体が発育が著しい。欠席者の少ないこと、発育調査がこれを証明している。

⑥幼児は自己の目標の選択ができるようになった。自由な伸々とした世界を感じるようになった。

短所

①遊びがかたよる

記録が証明する

②計画された保育の指導に時間の殆んどが費やされるので一人一人と心のふれ合いがな
く個に即した指導ができにくい

③単元を展開すべき環境や材料をととのえても、パートにくる子が次々とかわるので、作品としての盛り上り、知的な技術面の積み重ね、単元の継続的な展開は非常に困難
になってくる。

④一番表現活動の旺盛なこの時期にいろいろの表現活動に参加せず自己の興味のままの遊具に終始していたのでは、幼稚園教育の目的にも反することになり、幼児一人一人の経験領域のギャップが非常に大きいものとなる。

⑤疲れを自覚しない。
従って好ましくない行動がおこる。

以上大まかなものだけをあげたのであるが、これに従属する小問題は多数にある。これ等は研究会並に保育学会において掲げられたものとほぼ一致する。しかし本園としては更に深く研究することにより、解決する問題ではなかるうかと思っている。短所の一つ一つについて得た指導者の解明と、改善すべき点

並びに次年度に処する計画を、ここにあげて

みる。短所の①②③④については、幼児は前日に話し合ったことをすべて翌日まで覚えて
いることは無理である。これを強制することは自由保育の精神に反する。幼児の好む安易な遊びも教師の指導により、製作構成面に、又芸術的に発展してゆく可能性がある。故に単元にもっとダイナミックなものを選び、自由保育の時期を変えようと思われた。むりに個々の動きを結びつけ、一つのまとまったものにもっていく必要がないように思われる。本園としては遊戯室がないので広い部屋を作るため、食事の部屋に全部机を移した。そのため必然的に終日自由保育になりこの保育の欠点を補う組に分れた静かな時間をもつことができなかった。来年度再び此の保育を行う時は、半日保育の食事の机を必要としな
い時期を選びたい。そして朝の時間を自由保育と一斉保育にわけ、この間に休息の時間をとり⑤の欠点を避ける。自由保育ではできるだけ戸外で構成的な遊びができるようにし、種々の材料的な区分によるパートに分れて遊べるように工夫する。一斉保育には幼児に興味をおこさせる必要のある音楽リズム、又は

言語表現を取り入れる。時期は半日保育の時期を選ぶとともに、一年保育の表現活動の最も旺盛な時期を避け、量的な拡がりを必要とする一学期の終りから二学期にかけて（夏休みをはずし、プール遊びを含めて）行うのが良いのではないかと考えられた。パートの分け方も、幼児の多岐な生活を二つに大きくわけ、これに集中させようとしたことに無理があった。職員数の関係もあるが更に工夫する必要がある。

結論として八週間にわたる自由保育の収穫は非常に大きいものであったが、一年間を通じてこれに終始することは危険であるように感じられる。幼児が園に慣れ一応集団生活が出来るようになった時に、これを行い、自主自立の習慣をつけさせたい。そして全幼児が積極的に遊べるようになった時に、継続的な生活活動がどの幼児にも展開できるように、保育形態に変化をつけて幼児の質的な充実をはかるべきである。記録の方法も随分研究して行ったつもりであるが、断片的な記録に終り、幼児の生きた姿をとらえることができなかった。記録も間隔を縮め、自由保育の記録と組保育の個人的なふれあいによって得た記

録を併せて、血の通ったものにしたいたいと思う。

「一斉保育と、自由保育」といってもその園の僅かな環境の相違が大きくこの成果を左右する。これを実施するに当っては、自分の園の状況を精細に検討し、それに合った方法をよく研究すること。緻密な計画と周到な準備をもってかかること。などを充分研究してからでないとい良い成果を得ることはむづかしい。

いと痛感した。こうして考えてみると、いかにも自由保育は教師側にとってはむづかしいことである。しかし、幼児の側に立つて考えるときは、たとえ生活にかたよりがあるとしても、楽しい幸福な生活の連続であることは間違いない事実である。そこで私も全職員は、本年度のより効果的な自由保育にそなえて、更により研究をしたいと意気込んでいます。
(大阪市立鶴橋幼稚園)

倉橋惣三氏著

『子供讃歌』をすゝめる

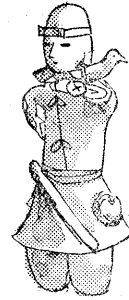
此の度、倉橋惣三氏の子供讃歌がフレーベル館より出版されましたことは、我が国保育界にとつて、まことによるこばしいこととあります。

此の書物は、氏が四十数年に亘って歩まれた保育精進の道より湧き出でた珠玉であります。

上梓に当り、保育関係者は勿論、特に広く一般の方々にも読まれることを希望し、おすすめ致します。

日本幼稚園協会

蒐集について



太田次郎

先日、ある木屋の店先に、色とりどりの外国切手が陳列されて居りました。何気なく手に取って見て居りましたら、その店の主人が「近頃、小中学生の間に、切手の蒐集が流行していて、珍らしいものは直ぐに売り切れてしまいます」と話してくれました。なるほど、私も知り合いの小学生から、記念切手や外国切手が手に入ったら、とつておいて欲しいと頼まれて居りますし、ある学校の展覧会で見事な蒐集アルバムを見かけたこともあり

ます。切手を集めることは、割合手軽にできますし、集めてゆく間に、そこに印刷されている風景や人物によって、知らず知らずの内に、

いろいろと有益な知識を身につけることもできて多くの人々に良い趣味として推奨できます。しかし、唯漠然として数多く集めようと心がけますと、珍らしいものや、他の人のもっていないものを手に入れようと無理をして

段々分不相応な高価のものに眼を奪われ、動機は単なる蒐集欲であつたものが、ついには虚栄や物欲などさまざまな悪徳のあらわれに変化してしまう恐れがあります。このことは何も切手の蒐集に限りませんで、大人の骨とういちりの場合などには、極端にあらわれているようです。

どうしてそうなるのでしょうか。大きな原因の一つは、集め方にあるようです。初めから、無計画に数多く集めることに専念しますから、高価な外国切手や、次々と発売される記念切手を無理に買い求めるのだと思われま

す。例えば、普通の十円や五円の切手について、スタンプの押してある位置の異つたものを集めたらどうでしょうか。片すみに、スタンプの半月のかかっているもの。真中に丸く押しであるもの、努力さえすればさまざまなものが手に入り、順序立てて並べてみますと仲々面白いものです。また、一見同じように見えても、印刷の際の微妙な差によるのでしようが、一つ一つの切手によって印刷されている模様

に濃淡の差があるようです。いろいろ集めますと、どの位の濃さが最も鮮明に模様を写し出しているかを知ることができ、同じ種類の切手のみで美しい蒐集帖を作ることできます。このようにして集めたものは、市場価値こそないかも知れませんが、集めた人にとっては、他にかげがない貴重なものになると思われます。要は、集める前

にある組織だつた方針を決めることにあります。動植物の標本を集める場合にも、同様なことが云えます。どうしても珍らしい昆虫や植物を採集することに興味が起こり勝ちですが、余程ほうぼうへ、採集専門の旅行でもしない限り、集めうる種類や数は一定の限度があつ

て、程なく飽きて棄てさられてしまうことが多いようです。けれども何も遠くへ旅行しなくても、毎日、家の庭に飛んでくる昆虫や、毎年近所の草原に生える植物を集めるので十分です。どのような気候の時に、どんな植物が生えているか、一日の内では、何時頃が最も飛んでくる虫の数が多いか、時間によって捕えた虫の種類がどう変化するかなど、動物の生態について、科学的な知識を得ることができません。また、東京の郊外のように、今

ほとんどん森や林が切り開かれ行っているところは、ある種の昆虫が姿を消しつつあることもわかります。植物では、外国から比較的近年移入された雑草の中に、未だ東京都内の特定の場所にしか見られないものがあります。例えば、ハルジオンと名づけられている春先に小さい花を一杯つける菊科植物は、東大の構内や、小石川の植物園、四ツ谷の上智大学附近などには、多数繁殖して居りますが、一寸離れた郊外にはその近縁植物であるヒメジヨオンがごく普通にみられますのに、殆どその姿をみかけることがありません。そのような植物が、どんな風に拡がってゆくかという問題などは、いろいろな場所での正確な記録

さえあれば、容易に解決できることです。家の近くの草原に生えている植物を採集することが、このような問題についての重要な資料となりますし、異った場所や異った季節における記録と比較すれば、学問的に面白い問題を見出すこともできます。そして、珍らしい動植物を数多く集めた標本よりも、価値の高いものが得られます。

今迄、蒐集について記してきたことが、実は、新しい教育にとつて忘れることのできない重要な問題を含んで居ります。よく知られて居りますように、六・三・三制が始まってから、小中学校の理科教育の方針が著るしく変りました。昔のように、かたくなな理窟を教える前に、生徒の身のまわりに起る自然現象に眼をやって、それを支配している理論や法則を引き出してゆく方法が採用されて居ります。

社会科学でも同様です。この新しい教育は、成功すれば、實際生活に役立つ、極めて有益な知識を生徒に与えることができますが、一つ誤って無方針になると雑多な事実にまぎらわされて、結局は何物も得られない恐れがあります。さまざまな現象をどのように整理し

て、秩序立った体系に組み立ててゆくかというところに、知識が科学的なものとなるか話の泉のような単なる娯楽に止まってしまうかの岐れ目があるようです。近頃、一部の大学生の中に、整理されていない頭腦の持ち主がみられますのも、新しい教育が未だ本来の成果をあげていない為と思われれます。

このように、小さい時の趣味の蒐集ですら新しい教育にとつてなおざりにできない問題が潜んでいるようです。

(お茶の水大助教授)

日本私立幼稚園連合会編纂

全国私立幼稚園名簿

B五判 一二〇頁 頒価一五〇円
〒 一六円

発売所

株式会社 フレーベル館

幼稚園教育研究集会を実施して

玉 越 三 朗

先般東京と京都で実施した幼稚園教育研究集会についてなにか書いてほしいとの編集の方からの依頼があったので研究集会を実施して感じたことなど。二、三述べてみたいと思う。

1 幼稚園の研究集会を独立したわけ

幼稚園の現職の教員の資質向上をはかるには、従来はおもに講習会や講演会の形式がとられていた。それが終戦後最も効果がある方法として注目されたのが研究集会である。幼稚園でも他の学校にならって次第にこの方法が行われるようになり、文部省でも昭和二十五年から小学校の研究集会につけ加えて「小学校幼稚園教員研究集会」として実施した。しかしこれには、各年度とも各地区ごと一班きり設けることができなかった。参加する人はほんとうに僅かでありまたじゅうぶん幼稚園の各分野にわたつての研究討議できなかった。そこで現場からもこれを独立して実施してほしいとの要望がたえずあった。

それが本年度からようやく独立して実施できるようになり、会場は二会場であるが参加者は五百余名、研究班は十班とすることができた。このように一大伸展をしたのは、実に皆さんの切なる要望の賜であるが独立して実施するようになった当面の理由の二、三を述べてみると、

1、幼稚園は小学校や中学校にくらべて、まだ教育内容指導法、施設設備、経営管理いずれの部分についてもい

る困難な問題が多い。しかもこれらは、まだ全国的にじゅうぶん話し合う必要がある。

2、幼稚園は地域差がひどいうえに、現職教育の機会が他の学校にくらべて非常に少ないので、教育向上のためには文部省もすすんで実施しなければならぬ。

3、幼稚園教育が最近特に盛んになってきたので、従来のような一会場一班では要望に応じられない。

2 研究集会のもつ意味

研究集会の意義はもうじゅうぶんしょう知していることと思うが、こんど実施してみた結果によると、まだじゅうぶんはあくされていらないようにも思えるので、ここに簡単に述べておこう。

1、参加者が現場の問題や疑問をもちよつて、それを解決するというのが主体である。

研究集会は、参加者が日ごろのおおの現場で解決を迫られている問題を中心にして、討議や研究をし、お互いにその資質を向上したり必要な技能を高めたりするのであって、研究集会で解決がはかられた問題は、参加者によつて現場にもちかえられ、参加者のあすか

らの指導や組の運営や幼稚園経営の改善に直接役立つものであるというのが本体である。

こういうわけであるから、こんどの幼稚園教育研究会の目的にも「幼稚園教育の当面する諸問題を総合的に研究し、その成果を実践の場に普及し、もって幼稚園教育の振興と教職員の資質の向上を図る」としたのである。ただこんどの研究会の期間がわずかに四日間であつたので、その趣旨が結果的にいつて不明瞭になつたらうみがある。

2、研究のしかたは参加者が協力して研究する。すなわち協同研究を主体とする。

研究会のように講師の指導にもつぱら依存し御説ごもつともだまつて聞いていたり、または他人の意見や主張に便乗して自分の意見を述べたりするのではなく、参加者のひとりひとりが積極的に問題と取り組んでみんなで協力して研究を進めていくことをたてまえとしている。それかといつて、ひとりひとりがそれぞれ勝手に研究を進めるのではなく、参加者が同じ問題に対していろいろな悩みや意見を出し合つて互に協力してその問題を解決していく、つまり各グループの協同研究とい

うのが本体となつてゐる。

3、民主的に運営されるのが建前である。研究会の企画や準備ばかりでなく、会期中の運営も、班ごとの進行もみな民主的に運営され、それぞれの人がみな責任を持つて会が進められていくのが本体となつてゐる。

4、研究会に期待される効果

研究会のあり方とは少し違うが、以上のような性格から研究会には次のような効果が期待されている。

(1) 現場の教育活動に即した理解がいつそう深められ、あるいは直接必要で豊富な資料が得られる。

(2) お互がもちよつた教育上の問題に対して、いろいろな角度からの解決のしかたがわかり、さらに教育全般にわたつての視野を広めることができる。

(3) お互が研究会において自主的に研究し、あるいは協力して結論をうることをのみならずから経験することによつて今後こどもの指導をする上に役だてることができる。

(4) これまでの自分の研究のしかたの反省の機会となり、また研究の方法や研究

の成果その他いろいろな教育活動に対して自信をもつことができる。

(5) 現場の教育活動に一つの刺戟が与えられ、教育改善に強い意欲をもつことができる。

(6) 日ごろ問題としてゐる点を解決するため、ある期間研究に没頭する余裕が与えられる。

(7) 同じような問題を解決するために努力してゐる多くの知己が得られ、これを機会に今後相互に資料の交換ができる。

3 こんどの研究会に研究問題として

とりあげられた主題と研究討議された事項

〔東京会場〕

主題一 健康教育はどのようにしたらよいか

研究討議された主な事項

一、健康教育をしていくうえの環境の重要性

性

(1) 物的環境

(2) 人的環境

二、健康教育をどのようにしたらよいか

(1) 消極面、すなわち健康の保持につい

て

- 1、身体検査
- 2、疾病予防
- 3、災害予防

4、家庭との連絡

5、基本的衛生のしつけ

6、疲労

7、保育時間

(2) 積極面すなわち健康の増進について

三、こどもの個人差をどのように考えたら

よいか。

(1) 活動の鈍いこども

(2) 活動的なこども

(3) 指しゃぶりや衣類かみのくせのあるこども

主題二 性格教育はどのようにしたらよいか

か

研究討議された主な事項

一、問題児の集団指導

(1) 流れにのることをしない型のこども

(2) 流れをくずしませかえす型のこども

(3) 流れにのろうとしてもれない型のこども

こども

二、集団指導に遊びをどのように役だてた

らよいか。

三、家庭の協力をいかにして得るか

(1) 家庭を熟知する方法

(2) 家庭との連絡

(3) 両親のとるべき態度

四、集団指導の一般論

(1) 保育の前提条件

(2) 幼稚園における權威の問題

(3) 集団の扱い方

主題三 幼稚園における製作はどのようにしたらよいか

したらいか

研究討議された主な事項

一、幼稚園の製作の範囲

二、製作指導の望ましい態度

三、製作資材

四、幼児の心身の発達段階に応じた製作

(1) ローウエンフェルトの発達段階

(2) お茶の水女子大学附属幼稚園の製作

課程

五、製作と他の保育内容との関連

六、製作のあと始末

七、折り紙

八、幼児の製作に対する家庭の理解

主題四 社会環境と生活指導について

研究討議された主な事項

一、幼稚園は地域社会においてどのようにあるべきか

あるべきか

(1) 幼稚園は地域社会の行事をどのように取り入れていけばよいか

(2) 家庭指導をどのようにするか

二、保育時間外指導はどのようにしたらよいか

いか

(1) こづかいの問題

(2) 困る遊びの指導

(3) 街の文化財の問題

(4) 夕食事の父親不在の問題

(5) 幼稚園と家庭との連絡

(6) 登園・帰園の時刻の問題

(7) 夏休み・冬休みの指導

主題五 幼稚園の経営はどのようにしたらよいか

よいか

研究討議された主な事項

一、施設設備のための財源をどうしたらよいか

いか

(1) 積立金

(2) 起債・補助金

(3) 助成金

二、教職員の俸給をどうしたらよいか

(1) 設置者の配慮にまづ

(2) 他に援助を求め

三、私立幼稚園の保育料はどうきめたらよ

いか

四、職員組織はどうしたらよいか

(1) 既婚・未婚の問題

(2) 特技を生かす

五、教員の研修はどうしたらよいか

六、よい教師とはどんな人か

七、小学校との連絡はどうしたらよいか

(1) 小学校との連絡をはばんでい

(2) どのように連絡をとつたらよいか

〔京都会場〕

主題一 健康教育はどのようにしたらよ

か

研究討議された主な事項

一、個人差をどのように考えたらよいか

(1) 個人差を見出す方法

(2) 個人差に即した指導はどのようにし

たらよいか

1 虚弱児・病弱児

2 発育のおくれていることも・栄養不

良のことも

3 運動能力の劣っていることも

4 肢体不自由児

5 ツ反応陽転児

6 今すぐ指導すればよくなると思われ

ることも

7 健康の習慣に対する個人差

二、健康増進のための積極的な健康教育は

どのようにしたらよいか

遊具について

1、固定施設のもつ特異性

2、新考案の固定施設

3、固定施設を用いての遊びにおける指

導目標

4、固定施設を用いての遊びにおける指

導上の留意点

5、その他の遊具

主題二 性格教育はどのようにしたらよ

か

研究討議された主な事項

一、幼児の問題

(1) 望ましい情緒の安定

(2) 望ましい積極性の養成

(3) 望ましい習慣の形成

(4) 望ましい情操の啓培

二、教師の問題

三、家庭の問題

四、幼稚園の問題

主題三 表現活動について

研究討議された主な事項

一、絵画指導はどのようにしたらよいか

(1) 思想画

(2) 小学校との関連

(3) 色の使い方

(4) 絵をかかないことも

(5) 絵の塾

(6) 父兄への絵の導き方

(7) 多人数の組の絵の指導

(8) 概念画の導き方

(9) 絵の見方と導き方

(10) 作品の評価と処理

(11) 幼児画と精神衛生

二、製作遊びのねらいとその方法

(1) 折り紙

(2) はきみなどの使い方の基礎的な指導

(3) 細工帳の使用

(4) 課題製作のあり方

(5) 木工の程度と道具

三、望ましい音楽教育のあり方

- (1) 歌うことの指導
- (2) 合奏の指導
- (3) 鑑賞指導
- 四、幼児のリズム感覚の指導はどのようにしたらよいか
- 動きのリズムの指導
- 五、幼児の言語表現の指導をどのようにしたらよいか
 - (1) 幼稚園語をどう扱うか
 - (2) ことばのしつけ
 - (3) 方言
 - (4) 言語表現の不活発なことも・活発過ぎることも
 - (5) どものりこどもの扱い方
 - (6) 生活発表の記録
 - (7) ことば遊びと指導
 - (8) 戯遊びの指導
 - (9) 絵本の指導
 - (10) ラジオの聞かせ方およびこどもの話の聞かせ方
 - (11) 言語の実態調査
- 主題四 自然および社会生活の指導はどのようにしたらよいか
- 研究討議された主な事項

- 一、自然観察の指導はどのようにしたらよいか
 - (1) 指導目標とそれに対する態度
 - (2) 自然観察の性格
 - (3) 幼児の発達段階
 - (4) 設備・材料
 - (5) 興味の問題
 - (6) 指導上の留意点
 - (7) 疑問の取り扱い
 - (8) 指導の場の問題
- 二、社会生活の指導はどのようにしたらよいか(見学と年中行事)
 - (1) 年中行事を教育計画に取り入れる場合の選択基準
 - (2) グループ生活指導の着眼点
 - (3) 家庭人との協力をどのようにしたらよいか
- 主題五 幼稚園の経営はどのようにしたらよいか
 - 研究討議された主な事項
 - 一、幼稚園の施設設備を充実するにはどのようにしたらよいか
 - (I) 施設設備充実の目標
 - (2) 園地・園庭をどのようにすればよいか

- か
 - (3) 屋外施設設備をどのようにすればよいか
 - (4) 屋内の施設設備はどのようにすればよいか
 - (5) 施設設備を充実するためにどのようになくふうと苦心をしたか
 - 二、園内研修をするのに適当な組織をどのようにしたらよいか
 - (1) 教師の研究意欲をどのようにして高めるか
 - (2) 園内研修をするのに適切な組織をどのようにしたらよいか
- なお、全体協議は次の主題で研究討議が行われた、ことをつけ加えておく。
- 〔東京会場〕
 - 一、幼稚園と小学校との連絡はどのようにしたらよいか
 - 二、家庭との連絡はどのようにしたらよいか
 - 三、災害予防対策はどのようにしたらよいか

〔京都会場〕

幼稚園教育と小学校教育の関連性

4 反 省

こんどの研究会は幼稚園だけの最初の集会であったため、しかもいろいろな事情のためその準備期間が非常に短かくなってしまつて、予期した効果があがらなかつたことをほんとうに申し訳なく思っている。特に研究会を心からお世話願つた方々や指導者、参加者に対しては申し訳ない次第である。ただ以上の人々の積極的なご援助によつて、両会場とも無事に終ることができたことがせめてものことである。しかしよく考えてみると、すべて失敗したことはかりでなくまた少しはよかつたこともあるようである。次に私自身が悪かつたと思うこととよかつたと思うことのいくつかを述べてみることにする。

悪かつたと思う点

- 1、準備期間が短かつたためおよび予算が少かつたため、企画、運営がうまくいかなかつた。
- 2、研究主題の範囲が大きかつたため、問題解決の方法を見出しただけで終つてし

まつたり、問題の範囲を決めるのに相当手間どつたりした。

3、参加者がじゅうぶん研究し資料を準備して参加する余裕がなかつた。

4、研究に必要な時間が短かつたし、研究の時間と休養の時間が程よく組合わされていなかった。

5、研究会の意味がよく理解されていなかったため、研究討議の進行に多少の困難があつた。

6、指導者、司会者の連絡があまりよくいつていない班もあつた。

7、参加者のなかには、講演会や講習会と同じように考え、会期中つづけて出席しない者があつた。

良かつたと思う点

1、幼稚園単独で実施したため、参加者を多くすることができた。

2、班別研究の班が多くつくられたので、幼稚園の各分野の研究が併行して進められた。

3、共催者、指導者、司会者、参加者、役員の前すべてが、非常に熱心であつた。

4、実地保育園がすすんでありのままの保

育をみせてくれた。

5、実地保育についての協議で、保育した教師をつるしあげにするような批評がなくなり、良いところをみつけ出してそれをもととして話し合うという態度をとるようになった。

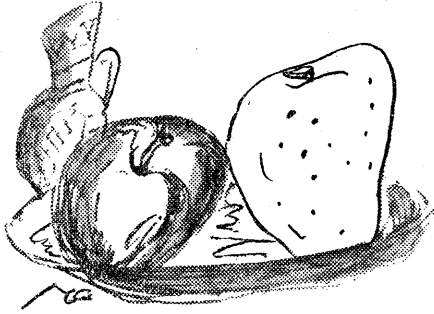
6、班別研究その他で、参加者がすすんで小グループの司会やその他の世話係を引受けるようになって、自分達の会であるというようないふ意欲を積極的にみせるようになった。

7、班によつては、自主的に当番を決めて朝晩の部屋の清掃、整頓をして、その教養の高さを示して小使さん感謝させられた。

以上とりとめもないことを述べたが、重ねてこの研究会をお世話願つた人々や指導者参加者の皆さんの心からのご協力をこの紙面を借りてお礼を申すとともに今後の研究会に積極的に御援助いただくようお願いする。なお、この研究会の研究結果の記録は、文部省から刊行する予定である。

(文部事務官)

問 題 児 の 生 長



土 屋 眞 砂 子

はじめに

子供個々の問題点をしっかりと握って教育に当ることは実家にとつて極めて大切なことと思うが、問題児をほんとうに仕様のない子だときめつけて、神経過敏に事々に問題児扱いをすることは、教師自身が問題の教師になつてしまふことであつてしまふべからぬことと思う。

私は長所短所は裏表、どんな短所でも教師の指導如何によつて集団へのよい影響として生かすことが出来るという楽天的な考え方で終始している。

それ故に問題児ということになるとどの子供を選ぶかと苦心した。問題児とここに呼ぶことを申訳ないと思ひながら二人の古い記録を拾うことにした。

かんしゃく持ち、熱狂的、秀才型のA児

1 家庭環境

父は東大理工科出身某会社化学研究部長、無口無愛想学究肌の人、子供の教育に関してに至つて放任、酒は多少の程度、当時三十三

才。母はお茶水専攻科出身、優美家庭的な人教育に熱心、体質弱く神経衰弱症にて入院静養数度、当時二十五才。

A児は長男で弟妹の各一名はどちらも鈍重型。女中は誕生当時からついている温厚な読書好きな人。

家屋は半ば洋式文化的な生活、広い庭には四季折々の花が咲いていた。母親の趣味らしい。遊具玩具等も豊富に可成り子供中心の雰囲気を感じた。

父方の両親が隣家に住んでいて常に世話をやくらしい。附近は大邸宅の多い閑静な住宅地帯である。

2 特性及び幼稚園での行動

○三才から五才までの満三年間保育

○丸々と肥つた発育のよい児、ちぢれた赤い髪、まつ毛の長い大きな眼、笑くぼ等外人臭い愛らしさをたたえていた。茶目気のある快活な児だが、興奮し易く癩に障ると忽ち激怒し凄味をおびた表情でやつ当りする乱暴さは一種気狂いじみていた。

○衣服持物等には一向に無頓着、新調のエプロンも朝からドロドロ、靴下の先はいつも五

寸位ぬけてつま先にブラブラ引きずって歩
いていた。おべんとう用具、ハンカチ、帽子
等は常に風来物の仲間になつていても平氣、
自分から探そう等とはしない。

○絵画表現は至つて幼稚、ぐさぐさと赤や黒
のどぎつい色で紙一ぱいに、さも氣晴らしと
いったように大まかな線で描きなぐる。それ
でも自分では可成り意味を持った生活表現で
あるらしく、ブツブツと語りながら一人悦に
入っていた。

○製作は粘土のようなものは好んで奇想を表
現するが、紙製作等は実に汚なく無器用なも
のでやろうという積極的な意思を余り持たな
かった。

○一番満足そうな遊びは砂を掘ったり、水を
流したり箱積木をかついだり汗だくだくにな
つて、精一ぱい自由に気の合った二、三の友
達と遊ぶことであつて、昼食時やお帰りの時一
度や二度の呼び声では到底集つてくれない。

引きずるようにして別行動をとられても平氣
でこびりついていた。

○他人の遊びのクライマックスをねらつて遠
慮なくふんづけたりするのが得意、ブランコ

等は始終横取りをする。それがままにならぬ
と髪をつかんで吊し上げんばかりの残忍性を
帯びた行動をすることもあるので、時々氣の
弱い児童は狼の襲来とばかりさわぐこともあ
つた。それでいて時々女の児達を発作的にい
やがるのを無理に抱きしめたりするような過
激な愛情を表現した。

○お話等は芸術的なもの、平和的なもの、単
純なもの、喜ばない。刺戟の強い探險的なも
のや怪奇的なものを非常に喜ぶと共に、数や
機械に関する遊びには特に興味をもつてい
た。

○附添の女中さんは途中でまかれてしまつた
り、ラジオ屋や停留場の電車の觀察にねばら
れてしまつたり、玩具屋の前で地面を踏まれ
たり大変な心遣いのようなであつたが、常に忠
実にここにここと後を追いかけていた。

○常に集団の平和を乱す存在ではあるが、何
となく俗にいう天才と氣狂いは裏表という感
じで、秀才的な頼母しい閃めきをみせてい
た。狼の襲来とばかり恐れられることもある
のに、どことなく人気のあるほほえましい友
交を子供達同志の中にもつている良さもあつ

た。

○保育第一年に於ては三才児のどの子もがそ
うであるように集団の中にあることを樂しむ
時代で遊びが余り友達と交又しないのでこ
うした行動は目立たなかつた。第二年目に於て
最も鋭くその問題点を縦横無尽に發揮した。
三年目には幾分と集団教育の力が身についた
為かおちついた個性として良い面を多分に伴
うようになった。

3 原因と考えられるもの

物心共に豊かな家庭の長男にはふつくとし
たおらかな児が多いのにA児の場合は全く
反対、両親の頭脳性格等から観て遺伝的な素
質と推察した。また長男に圧迫されて育つた
弟妹の鈍感型から観て、長男として非常に大
切に自由奔放な愛撫をうけて育つたことも一
つの原因かと推察した。

4 指導の課程

○強い刺戟を与えないように即ち反抗心を起
させる機会を少なくするように、リーダー性
のあるお姉様氣取りの女児等を代る遊び
のグループに入れて、遊びの雰囲気との融和を
計ると共に常にその行動を遠くから看守するこ

とに努めた。

○教師との接触の機会を努めて多くし抱擁感を抱かせ、先生はいつも自分の味方であるということを知らせ遊びの場の安定感に努めた。

○家庭生活に於て不機嫌なこと等あった時は予め報告をねがい、憂憤晴らしの乱行の起らぬよう予め注意をもって接した。

○母親は理知と愛情とを兼備した熱心な人、女中さんもこの母親の依頼によって、幼児心理や幼児教育の大事を私に学んで下さった。り、皆して協力根気よく社会性の涵養に努力したのであるが、期待する効果は遅々として上らなかつた。

5 その後の生長

○小学校を卒業する頃迄は自分勝手な振舞いが相当多く、皆と一緒の平和はなかなか保てなかつたらしい。電車の中で同級生の眼を洋傘で突いたのも三年生頃だつた。

○中学校時代から次第に性格がおちついて勉学に集中し出したらしく高等学校時代には、数学に於ては級中右に出づるものなしという優秀さを発揮し交友関係もよくなつた。

○幾分非社交型学者肌ではあるが、良い家庭をもち現在某官大物理学助教。

わがままで、自尊心の高い秀才型のB児

一 家庭環境

父は外語学校出身、貿易商、海外への往来繁く、実業的に敏腕家らしい、当時四十才、母は専門学校出身、家庭科中等教員の経験あり、多趣味教養のある努力実行型の人、当時三十二才。

B児は比較的年寄りつ児であり、一人つ児で両親の行届き過ぎた感のある愛撫の中に、育つ閑静な住宅地帯に宏大な邸宅を新築、相当高級な生活振り、女中は一、二名よく代つていた。

二 特性及び幼稚園での行動

○三才から五才まで満三年間保育

○両親共に肥満型であるが、子供は瘦身、発育は普通、元氣旺盛、男児らしく、腕白、いたずらつ児であるが豆紳士的タイプ。

○服装持物等身辺のすべてが清潔きりりとした装い、自他の区別もはっきりしていて自分

のものはなかなか大切によく整理した。

○グループ遊びには積極的によく参加するが比較的能のある子供で然も自分の手下になる者を特に遊び相手として好んだ。能力はあつても自分の勢力をおびやかすような者とは遊ばない。また能力の劣る者と遊ぶ時は軽蔑した待遇どちらかといえば奴隷扱いをした。

○リーダー性の強い友達や腕力のある友達と遊ぶとすぐに問題を起して常にけんかの中心人物となつた。よく教師にいつけ口を訴えて来たが教師の処置が自分に不利だと思つて敏感に姿をくرامしてしまつた。どんな場合にも絶体にあやまらない、形式ばかりでなく心の中でも反省しているような気配はなくむしろ不平を抱いているようであつた。

○問題は常に家庭に帰つても自分が有利であるように外の出来事の報告をすることである。母親はそれを信じ吾が子が不利だと認めると直接家庭へ談判注告に出かける、故に母親同志のもつれの中心人物でもあつた。

○母親は教師との話し合いになると、実に巧言麗色よく了解したという儀礼的な態度をとるのであるが、その子と遊ばせないとか、そ

の家庭には絶体に遊びにやらないとが、瞬間的な幼児間の出来事にもかかわらず、いつまでも執念深くにくしみの態度をもち続けた。

○真面目で快活で何事にも能力優れ集中性強く、絵画、製作、音楽等凡て自己中心の表現の面に於ては最優秀の成績を發揮するのであるが、おかたづけ、おそうじ、協同的な作業になるとかけひきの心強くひよいとうまくぬけてしまった。

○快活な可愛いピチピチとした男児らしさはどの母親もが羨やましく思う程のタイプであつて、頭脳の優秀さは子供ながらにお互にたえ認める程であるが、余りにも自尊心強く利己的で、同情性協同性等他人を尊重する心が薄いので友望の乏しい存在であることは玉に傷であつた。

3 原因と考えられるもの

○両親共に、財力のあること、生活レベルの高いこと、吾が子が優秀性をもつことに非常な誇りを持ち、対談すると常に自己を誇り他を卑下するので不快を覚える程であつた。

○確に高級な生活層で、行届いた教育観をもつていたが吾が子中心の親馬鹿の域を脱する

ことが出来ず親自身非社会的であつたこと。

○父親が職業柄親分肌であつたこと、母親が父親が留守勝ちなので、責任感、孤独感交々のものから子供の教育にあせり過ぎていた。

4、指導の課程

○友達同志ではなかなかへ理口を漕いで協調しないが、理解力判断力が強いので常に教師が行動を共にし、リーダーを交代にして自他の長所を認め合う機会を多く作つたり、飼育や掃除等の当番を共にして、同情感、責任感を養うことに努めた。

○母親に参観を築く求め集団の中での吾が子の姿を観察して貰おうとしても、なかなか子供が賢く大人の見ている前では悪い事も少ない。話し合いにすれば非常に快よく了解協力するが、裏へ廻つては他児を排撃するので心の底まで信じ合つての話が進まなかつた。

一番困つたのは吾が子に不利な事件がある教師の心を物質で釣ろうとするのだった。

○親子三人揃つて実に賢く、性格強く、自信満々であることが却つて児の幸福をマイナスするように考えられてならなかつた。

○両親がもつと能力が乏しいとか、或は和敬

の心をもつているとか、素直に従順に吾が子も人の子も共々に伸び行くことを愛する寛大さをもつていたならば、B児の優秀な幸福さは倍加することであろうと一両親に働きかけたが私の力の方が弱くて、家庭教育の開拓はなかなか困難なものと考えさせられた。

5 その後の生長

○小学校、中学校、高等学校共に一流学校に学び成績簿は常に秀の勢揃い、母親からは会う毎に成績だけが鼻高々と報告されたが、一定の友以外には嫌われる存在のようであつた。

○優秀を誇つた彼ながら運拙なくて東大に二度の不合格、私大に進んだが既に一年二年上に同級生が在学していたわけ、この事は一家にとつては一大事住居も転じてしまつたが、夢多い青年にとつて余りにも大きな試験であつた。然し本当の人間性を培うためには、今こそ反省奮起衆と共に生きる真剣な好機会であるうと私は励ましの言葉を贈つた。

○現在一流銀行に勤務、音楽に興味を持ち心を暖めているとは嬉しいたより、やがて経済界に翼ばたくことであろうと期待している。

(市川市日出学園幼稚園)

冬の遊び



山口たつ

冬期に於ける子供の遊びは、寒さに対して暖をとる様な、活潑な運動量の多い遊びが好ましく、動的な、テンポの速い遊びが、多い様に思われます。晴天の日には、つとめて、戸外遊戯を奨励し、団体的な遊びをする様に、誘導する事が大切だと思えます。

当地方の子供が好んで遊ぶ遊戯の二、三、を紹介いたします。

「子とろ、子とろ」

先づ鬼を決める。後の子は親を先頭に一系列に汽車の様につなぐ。そして、みんなで「子とろ、子とろ、どの子をとるか」と歌いま

す、「この子か、この子か」と前から一人づつ聞き、一番最後の子供が聞いた時に、「その子だ」と答えて、最後の子を鬼が、つかまえようとする。親は、その子をかばって捕えられない様に防ぐ。途中で列が切れたりしない様にする。捕えられたら、鬼になる。鬼は先頭の親になる。これを繰返す。この遊びは、お互に協力しないと、列が切れたりしてうまくできない。運動量も相当にあり、子供達は大変喜んで遊びます。

「石けり」

地面に色々な形を書き、石をけてその中へ入れていく。一番終りまで来れば、帰りは石を持って、目をつむって一歩、一歩、線を踏まない様にして帰っていく。日当りのよい暖い場所で五、六人のグループでしていきま

「ちつば」

地面へ数個の丸を書き、玉を作つて、入口に置く、片足、両足、交互に線を踏まない様に、とんでいく。一番大きな丸で休み、又跳んで帰る。玉をとつて、最初の所へ投げる。その玉のある所は、とばして跳んでいく。同じ事を繰返し、玉が最後までいけば持つて帰

り片足跳びで、その周りを廻る。片足跳の個人遊びであるが、平均能力をつける事が出来る。相当の体力が必要である。日当りのいい場所、石畳み等利用して遊びます。

「まりつき」

個人遊びで色々地方地方で、独得の手まり歌を、歌つてついでに。足をくぐらせたリ背中を受けたリ、下股をくぐらせたリして遊びます。女の子が陽溜り、五、六人のグループで楽しそうに歌つて遊びます。

「ドツチボール」

円形で、赤白の二組に分れます。ジャンケンで円内へ入る組を決める。勝つた組の望み通りにします。円内の組を、円外の組が、ボールを投げて攻めます。ボールのあたつた子は、円の外にでて並ぶ。円内の子は、球に手を触れない様に逃避する。一度地面についた球は体に触れてもいい。一定の時間、(十分間位が適當)行つたら、円内と円外が交替します。球のあたつた子の数で勝敗を決める。極めて、活発な、スリルのある遊びなので、男の子はとて喜びます。この遊びは、機敏性、協力が養われ、冬期には最も好ましい団体遊びだと思えます。

「猫と鼠」

猫と鼠を決める。他の子は円形を作る。猫は円の中央で目をつむつてすわっている。鼠はその周りを手をたたきながら、歌に合せて廻る。

「もしもし猫よ。寝坊猫、お手々のなる音よく聞いて、起きよ、起きよ、早く。」

歌が終わったら、猫は眼を開けて、鼠を追いかける。円の子は、手をつないで柵をつくつて、猫につかまらない様に、鼠をかばつてやる。つかまれば、自分の席にかえる。猫や鼠になつた子は、相当な運動量であるから、暖がとれる、円を作っているのは、お互に協力して鼠をかばうため、両者のチームワークが必要だ。五、六歳児はとても興味を持って遊ぶ。

「縄とび」

一人一人で前廻し、後廻しをして跳んで遊ぶ。団体的な縄飛びは、まだ出来る子が少ないが、長い綱の片端を、教師が持ち、片端を幼児に持たせ、跳びやすい様にまわしてやるととても喜んで跳び、だんだんうまく跳べる様になると非常に満足感を覚えて嬉しそうである。五、六才の女児が特に好んでするが、

男児も跳びたがり熱心に練習をする。跳躍による全身運動で、冬の遊びとしては最適であるが、興味にまかせて過度になり、過労しない様、気をつけたい。充分休息をとらせなければいけない。

「かけっこ」

一列に並んで。走る。一等、二等と順位をきめる。年長になるとこうした競争的な遊びを好む様になる。

——鬼ごっこ——

「手つなぎ鬼」

だんだん鬼になつた児子が手をつないで、追つていく。

「ずわり鬼」

立つている子にさわる。坐つて居ればさわらない。機敏性が必要である。休息が自由出来るので喜ぶ。

「こままわし鬼」

お正月前後には、こま廻しが男児の間では盛になる。これは、廻したこまを、掌にのせて鬼ごっこをするこまの廻つてる内に捕える一寸技術を要するので、六歳児にならないとあまりしない。男児がする。女児はしない。

「羽根つき」「お手だま」「おはじき」等

の遊びはお正月前後、女の子が好んでするがこうした静的な遊びは、あまり現在の幼児はしなくなった。当地方ではすたれていく様になります。「羽根つき」等はまだ仲々うまくつけないので、幼児には興味がない様です。

「せつせつせ」

「せつせつせ、ばらりこせ。ことしのぼたんはよいぼたん。耳にかけて、すつぽん、ぽんもう一つかけて、すつぽんぽん」と歌いながら、両手を打ち合う。二人で向いあつて、女の子が陽溜りで、二、三組しているのを見られるが、こうした消極的な遊びは、やはり漸次すたれていく様に思われる。

「あやとり」

女児が、毛糸や、ビニールの紐であやとりをしている。一人とり、二人とり、とわけて興味深くしている。小筋肉の発達促進には、いい遊びである。室内遊びとして適当である。

「雪あそび」

雪が降れば、子供達は外に飛びだして、雪合戦を勇敢にする。ころころと雪玉をころがして、雪だるまを作る。女の児は、雪うさぎを作る。

小石木片を、紐に結びつけて、雪つり遊びをする。こうした雪遊びの後は、濡れた手足衣類を、よく乾かしてやり、凍傷をおこさない様に、よく注意する。

「乗物ごっこ」「おすもう」等男児は特に好んでする。危険なとり方をしない様に、よく注意して、子供達で行司もさせると、とても喜んでする。

「王様おとし」

鬼を一人ジャンケンで決め、他の子は一列に並ぶ。鬼は王様を最後にして、下から順番にジャンケンする。勝ったら、次の人とジャンケンする。負けたら、その人と替って、順にジャンケンをしていく、王様とジャンケンして勝った人が、王様になる。陽だまりで、ジャンケンを楽しんで遊びます。

以上挙げた様な遊びを、冬期には子供達が好んでしている様に思います。あくまで、寒さに負けず、仲々と大自然の大気の中で跳びまわらせたかと思えます。その他、攀登棒、鉄棒、等を使って、懸垂力をつける様な、体育的な遊びもさせる様にしなければいけないと思えます。ごっこ遊びの様な、静的な、模倣遊びは、あまり此の時期には歓迎されな

い。だが男児に、野球ごっこ。ターザンごっこ、西部劇ごっこ、の様な、勇壮活発な、スリルにとんだ遊びを、六歳児の子が十人位のグループを作り、そのものになりきって、楽しそうに遊んでいる。

冬期の子供の遊びは、特に体育的な面も、充分考慮して、積極的に、鍛錬する様な、集団的な遊びを、興味ある平易なものに、創作して与えていく事が必要だと考えます。球技等も、もつと幼稚園の遊びの中に取入れていくべきだと思います。

(名古屋市青葉幼稚園)

◎教育実際指導研究会のおしらせ

六月の教育実際指導研究会の期日が左のように決まりました。

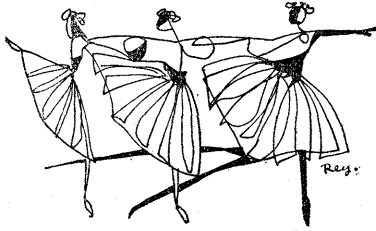
六月九日(木) 六月十日(金) 六月十一日(土)

何卒御予定の中にお組みおき下さいますように。

昭和三十年三月

お茶の水女子附属幼稚園内
幼児教育研究会

都 心 地 域 の 保 育



操 眞

林 守

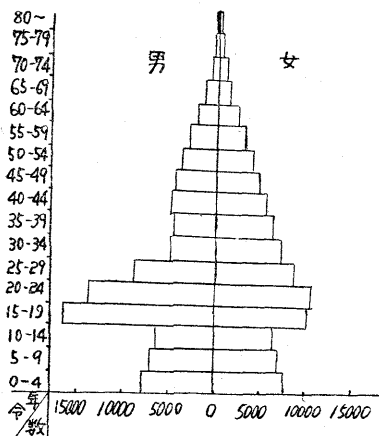
小 津

「日本橋に三代住むと気狂になる」と巷間に云われているが、昔から都会の真中は人間の往来も繁しく、所謂、生馬の目を抜くような忙しい生活が展開されていた。況や、二十世紀後半の現代において、商業の中心である東京の中心の繁華街の生活の忙しさは、数十年前の比ではない。ぎっしりと立ち並ぶきらびやかな商店街、その間を幾重にも列をなして走る車の波、人の波、屋間は全国から集まる買物の人の群、朝晩は東京中から集まった事務員、店員達の通勤の人々の群が道路を埋めつくす。夕方から夜にかけては露路の奥まで入りこんだ料理店、カフェー酒場などに各種の人々がざわめき過ぐす。こうして

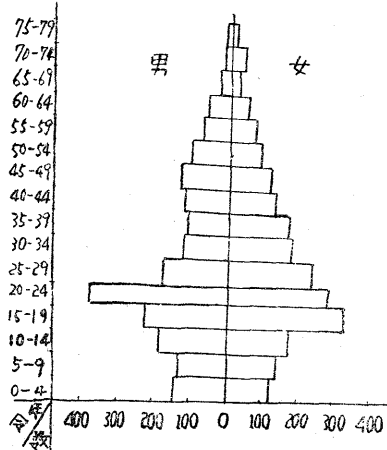
夜が更ければ都会の真中の人口は、屋間の十分の一位に減ってしまい、ビルに挟まれた市は森閑としてしまう。これが日本の首都、東京の中央、日本橋である。

大人の経済、金融活動の中心として目まぐるしく廻転をつづけている此の一翻にも、その中で生活する子供達がある。たまにデパートに買物にだけゆく人々は、そこにも子供の生活があるなどということ想像もしないだろう。だが、天にまでそびえ立つ大きなビルディングの裏側にまわって露路を覗いてみれば、子供達に共通な、あの輝やいた眼が好奇の眼を光らせて遊んでいる姿を見つめる。それから又、デパートの買物の人々の中をかきわけて、普段着のまま売場の間をかけまわっている子供の姿に気が付いた人もあるだろう。しかし大部分の大人達は、少くとも此の都会の中心に出てくる時だけは、自分達の買物のこと、仕事のこと以外のことを頭に思い浮べたことはないだろう。此の世界では大人達は凡そ利己的である。容赦なく群をつくって突走る自動車の群と同様に、人々はめいめい自分達の思いに耽り、身なりをつくらって

第1表 年齢別性別人口 (中央区)



第2表 年齢別性別人口 (学区区域)



人の波に押流されて歩く。そして此の土地に住む人々のあること、子供達の生活のあることを想像もしない。

此処に住む子供達の生活は、自然、住宅地の子供と比べると、異った様子を呈している。全般的にみて、子供に落着きがない、一つの仕事に落着いて取組む気魄と忍耐力が欠けている。独創性がない、現実的である、等の特徴は、此処の子供達と接すると、誰もが気付く事柄である。此の地区の中にある幼稚園の先生達が、毎日の保育の中で苦勞する事

柄も、子供のこういう特性に關してである。教育は地域の実態の上に立たなければならぬと云われるが、繁華な街の中の幼稚園はどのような教育的考慮を必要とするであろうか。これが所謂都心、日本橋の真中に位する城東幼稚園の持つ問題であり、近代的都市生活の持つ問題の典型である。此の問題をもう少し明らかにするために、私共は先づ此の地域の社会的地盤の実態を調べ、その中で子供がどのような生活をしているかを明らかにして、此の地域の子供の特性の由つて来る所を

見て、保育上の問題を解決する一つの手がかりとしようとしたのである。

一、社会的実態

此の地域は前述のように、大きなビルディングや商店が林立しており、人と車の交通が繁しい。屋間は買物の人、事務員、店員で人口が多いが、実際に此の地域に居住する人の数は比較的少なく、而も居住者は次第に減少の傾向にある。これは同じ東京でも中野、杉並等の郊外の住宅地とは対照的な事実であ

る。又此の地区の人口の年令的人口構成を見ると極めて特徴的な事柄は、十五才から二十才の間の人口、而も男の数が著しく多く、その他の年令層が少ない。(第一表及び第二表参照) 中央区全体についても、又、特に城東幼稚園の学区域である日本橋地区についても同様である。これは事務所や商店の管理人として夜もビルディングの中に留まっていた若い独身の男性が多いということ、又使用人として居住する少年の多いことを示すものである。

城東幼稚園の学区域は、日本橋通、江戸橋八重洲各一、二、三丁目から成り、此の範囲から通学する児童数は毎年減少の傾向にあり郊外住宅地域の学校とは此の点でも異つた様相を示している。(第三表) 現在、実際に此の区域内に居住する児童数は、学令児童約三百名、就学前乳幼児約三百名で、小学校入学児童の九五パーセントが幼稚園を経ている。

これらの子供を持つ親の職業を、城東幼稚園の父兄の職業別によって示すと第四表の通りであつて、飲食店経営に従事するものが多いが目立つ。此の表の会社員の中には、事

務所や商店の住込み管理人が多い。こういうことから、家庭の中にまで職業的制約が浸透せざるを得ない場合が多くなり、飲食店の場合には家の最も良い部分が客のために提供され、父親のみならず母親も仕事の中にまぎこ

まれる場合が多くなり夕方から夜にかけては子供の面倒もみてやれないという家も少なくない。

二、児童の生活

大人達の忙しく動きまわる中で、子供達は

その間を縫って遊んでいる。遊園地も公園も一つもない此の地域では学校と学校の運動場は子供達の唯一のオアシスである。学校と幼稚園では子供の生活に適したカリキュラムが組まれ、適切な指導が施されているが、一度び校門から外に出れば、そこは子供のために仕組まれた環境ではない。学校、幼稚園で過す時間は子供の生活の一部分に過ぎず、校門の外での子供の生活が学校の中に持ちこまれ、学校の苦勞もふえてくる。

此の地域には子供達の簡単に行ける範囲にデパートとSデパートの二つのデパートがある。Tデパートは子供等の遊び場の一つである。第五表は夏休みの一に行つた調査であるが高校生までを含めると大体千三百名以上の子供が独りで、或いは友達とだけでデパートに出入している。小学校低学年及びそれ以下の子供、だけ算しても百名以上である。デパートの中で何をして過

第3表 入学すべき児童数

年度	昭和				
	30	31	32	33	34
人数	76	65	42	41	46

23. 12. 1. 調

第4表 保護者の職業

	人数	百分氏%
会社員	21	22
商業	27	28
公吏	9	9
飲食業	14	15
工業	7	7
理髪業	3	3
遊戯場	3	3
医師	1	1
運送業	1	1
その他	7	7
無職	2	2
計	95	

年 令	入										出									
	幼稚園 以下	幼稚園	小学校 低学年	小学校 高学年	中学校	高等学校	小 計	幼稚園 以下	幼稚園	小学校 低学年	小学校 高学年	中学校	高等学校	小 計						
10時 ～ 11時	男 0 女 0	男 2 女 0	男 11 女 3	男 28 女 3	男 38 女 21	男 30 女 30	男 106 女 62	男 0 女 1	男 0 女 0	男 2 女 0	男 8 女 4	男 6 女 6	男 8 女 8	男 12 女 24						
11 ～ 12	男 1 女 2	男 1 女 2	男 13 女 4	男 27 女 4	男 56 女 40	男 69 女 40	男 154 女 122	男 0 女 0	男 1 女 1	男 1 女 1	男 20 女 8	男 26 女 28	男 27 女 16	男 76 女 55						
12 ～ 1	男 0 女 0	男 5 女 4	男 4 女 1	男 7 女 4	男 26 女 32	男 40 女 39	男 82 女 80	男 0 女 0	男 4 女 4	男 8 女 1	男 8 女 3	男 12 女 10	男 34 女 48	男 66 女 62						
1 ～ 2	男 3 女 2	男 1 女 3	男 17 女 11	男 17 女 11	男 45 女 38	男 50 女 48	男 124 女 122	男 0 女 0	男 1 女 1	男 4 女 4	男 24 女 18	男 36 女 28	男 51 女 27	男 115 女 86						
2 ～ 3	男 5 女 0	男 6 女 3	男 5 女 3	男 21 女 10	男 33 女 17	男 15 女 3	男 53 女 64	男 1 女 0	男 3 女 0	男 7 女 9	男 14 女 12	男 20 女 48	男 22 女 27	男 66 女 92						
3 ～ 4	男 1 女 1	男 3 女 3	男 4 女 3	男 17 女 4	男 41 女 34	男 40 女 52	男 106 女 97	男 0 女 1	男 4 女 2	男 12 女 5	男 28 女 16	男 47 女 50	男 37 女 34	男 129 女 107						
4 ～ 5	男 0 女 0	男 2 女 1	男 4 女 5	男 12 女 2	男 25 女 21	男 28 女 42	男 71 女 78	男 0 女 0	男 0 女 4	男 11 女 4	男 9 女 6	男 45 女 33	男 49 女 41	男 114 女 88						
5 ～ 5,30	男 0 女 5	男 0 女 5	男 0 女 2	男 2 女 4	男 7 女 5	男 14 女 30	男 23 女 41	男 0 女 1	男 1 女 2	男 7 女 2	男 19 女 8	男 31 女 23	男 24 女 55	男 82 女 91						
小 計	6	20	58	82	131	55	666	1	14	23	130	223	252	672						
計	11	86	90	186	476	586	1385	3	35	78	200	444	517	1277						
果 計	11	47	137	323	799	1385		3	38	116	316	760	1277							

註) 以上は子供高志のみの数である (男と全部が近所の子供)
 尚、大人につれられて来た子供の総計は男 954、女1160である。入った子供と出た子供との数が食い違ふのは、地下入口を滞りためである。

しているかを見ると、第六表の如く、玩具売
 場、屋上、書籍売場が大部分を占めている。
 デパートの中には子供の目を惹くものが多く
 あちらの売場からこちらの売場へと子供は渡
 り鳥のように移り歩き、教時間を過してい
 る。又或る子供達はエレベーターやエスカレ
 ーターを何回となく昇ったり降りたりして遊
 んでいる。恐らく此の地域の子供達にとつて
 デパートは最も面白い遊び場であろう。
 デパートの中は自動車の危険もないし、俗
 悪なものもなく、最も安全な遊び場なので、
 家庭でもデパートに行つて遊ぶことを奨励す
 る向きもある。しかし、あらゆる種類の品物
 が無限に並んでいる中で、特に一つのを
 詳細に観察するわけでもなく、目移りする刺

第6表 デパート内の子供の行動

方法：一人の子供について約30分間追いかけた記録

対象：49組の小学生及び幼児

男、41組（中1人だけのもの9、他は子供同志2人以上）

女、8組（中1人だけのもの2）

延人数 男90名 女17名 計107名

子供の遊び場となる売場（数字は49組中の組数を示す）

玩具	25	文房具	6	ベビーショップ	1
展示場	17	電気器具	2	食品売場	1
書籍	13	服飾売場	2	屋上	26
エレベーター	5				

玩具売場の興味

	眺める	いじる	眺める	いじる
電気機	14	25	写真器具	6 9
自動車	1	10	こま	4 3
ゼンマイ動物	2	9	野球具運動具	1 3
電楽器	7	7	花火	1 1
ゲーム	7	8	人形	7 1
ビニール風船	7	1	きせかえ	2 1
海浜用具	1	1	首飾腰下げ	2 0
工作玩具	2	4	ぬりえ	1 1
ピストル鉄砲	2	6	ままご	0 2

女の子

屋上の興味

	眺める	いじる
動物をみる	20	
ブランコすべり台	6	金魚すくい
馬ののり	1	金魚すくい見物
動物をいたずら	3	ベンチにねころぶ

買物をしたもの

	計	10名
金魚すくい	3	金魚のえさ
飛行機材料	1	牛乳
ジュース	1	藻
ソフトクリーム	1	遊具

金額	50円	2	40円	1	30円	2	10円	5	5円	1
----	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	----	---

戦に囲まれて、子供は自然注意散漫になる習慣がつくであろう。

家で何か安いものを買ってももらっても満足しないで、喜びもしないというようなことでもデパートの高価なものを見つけているせいだ

もあろう。子供の物質観にも何か影響を及ぼしているであろう。

デパート以外には、子供の集まる遊び場は殆どない。大通りは人間が多いので勿論遊ぶことが出来ず、露路も両側が小さな料理店に

的遊び場のある所の子供達は、思う存分友達と一層明瞭になる。住宅地の比較

見られない。遊ぶともなく遊ばぬともなく、

なっているような所が多く、そういう所では子供が遊んでいても、直に追い払われてしまう。従って子供の遊び得る露路も限られている。しかし、家の中で遊ぶと商売や仕事の邪魔になるので、家の外で遊ぶ子供は住宅地の場合より多い位である。（第七表参照）

此の地域の家の外での遊びの極立った特徴は、まとまった遊びの少ないこと、一つの遊びの持続時間の短かいこと、ぼんやりしたりブラブラ歩きまわったりというような行動の多いこと、店の小僧さん等との交渉の多いことなどである。（第八表参照）この傾向は住宅地の子供の遊びと比較して見ると一層明瞭になる。住宅地の比較

第7表 家の中で遊ぶ子供と家の外で遊ぶ子供の比較

		お茶の水 4才	附幼 5才	日 本 4才	橋 5才
午 前	家の中	287	280	88	136
	家の外	79 (28)	179 (64)	53 (60)	138 (101)
午 後	家の中	139	204	64	118
	家の外	222 (160)	247 (121)	80 (125)	155 (131)
夜	家の中	293	246	88	160
	家の外	12 (4)	16 (7)	6 (7)	22 (14)

夏休の五日間の調査より。

() 内は、家の中を 100 としたときの家の外の比率

あちこちぶらぶらして、今これをやっていたかと思うと次の瞬間には向うで他の友達と話をしているというような調子である。しかも此のような状態が夜までつづく。多くの家庭で最も店の忙しいのが、夕方の五時以後であり、その時間になると子供達は外で過さざるを得なくなる。子供達が自分達だけの生活を持つことが出来ないということ、思いきって遊びに没頭することが許されない環境、そし

第8表 都心地区と住宅地区の子供の街頭における遊びの調査

	住 宅 地			日 本 橋		
	A	B	C	A	B	C
はっきり目的をもってまとまった遊び	19	329分	44%	13	157分	15%
ややまとまった遊び	21	154分	21%	58	466分	45%
目的を持たないブラブラ行動	10	75分	10%	36	177分	17%
会話を主体とする行動	11	79分	10%	13	99分	9%
何かを見物したり眺めたり	14	89分	12%	18	97分	9%
そ の 他	8	42分	5%	9	35分	4%
計	83	743分		147	1,031分	

表の説明 住宅地、日本橋各地域において、晴天の日の午後、予め定めておいた範囲の地域で七名の観察者が記録を行なった。調査の対象児は小学校低学年以下の幼児童で、一人の子供について約30分間の観察を行なった。調査された人数は、日本橋、男21名女13名、住宅地、男27名女8名である。日本橋は、日本橋通、江戸橋、八重洲各一二三丁目、住宅地区としては、四谷三丁目と四丁目の一部、左門町、大京町、信濃町の一部である。

記録は行動の単位に分けられ、各単位の特徴づけを行なった。表中Aが行動の該当単位数を示す。Bは各項の単位の分数の和である。Cは当該項の分数の全体に占める割合である。

表中、はっきり目的をもってまとまった遊びとは、ままごと、ごっこ遊び組織立ったなわとび、戦争ごっこ、野球等である。ややまとまった遊びとは土いぢり、本をみる、三輪車のり、すべり台等の遊びである。

組織立ってまとまった遊びは、都心地区に著しく少ない。

第9表 都心の子供の特性と保育上の対策

特 性

落着がない、注意散漫、目移りがする、忍耐力がない。製作なども永続きせず、一区切りつくとやめてしまつて、それ以上に自分の興味を追つてやりとげることがない。友達同志でごっこ遊びを展開させることが少ない。

たえず刺激にさらされているので、一寸した物音などにも敏感で、目ざとい。一寸した人声や音楽などにも気を奪われ安い。仕事をしていても、自分の外のこと気がなつて、仕事に身が入らない。

獨創性・想像性がなく、現実的である。先生に云われたことはやるが、それ以外のことをやらない、日常のことにはよく気が付き、先生の必要なものなどは察してもつてくる。先生の顔色をみるが、自分から思い切つたことをやらない。

活動し得る空間が狭い所が多いので、精力があまっている。幼稚園に来ると先ず学校中を一度走りまわる子供が沢山いる。

対 策

まとまつた遊びを促進させるようあらゆる手段をつくす、——子供の側から自発的に出てきたごっこ遊びなどはつとめて尊重し、持続するように工夫し、刺激を与える。子供の興味を誘うようなテーマの下に、製作リズム、ごっこ遊びなどを仕組んだ保育を心がける。やりかけた仕事は最後までやり遂げるように励ます。熱中して仕事をしている時には、全体の計画があつても、出来るだけ仕事をやり終えるまで待つてやる。一日の日課の中に静かな時間をもつて、皆が一緒に静かにする。静かな音楽、などを聴いて静かにする時間を持つ。

ごっこ遊びを促進させる。つとめて、此の地域以外の生活経験をを持たせる。

(園外保育)

子供に身体的に活動の機会を与える。校庭に出た時には思う存分かけまわらしつてやる。

特殊な地域条件をカリキュラムの中にとりいれて、地域社会を利用することを心がける。交通頻繁であるから、交通道德を学ぶために、又、交通に関する経験を活用するために、交通遊びの単元を持つ。

店員が豊富だから、お店ごっこによって商品の認識を深める。

てそれが子供の園外の生活の非常に多くの部分を占めているので、此の地域の子供が落着きがないと云われるようになるのも無理からぬことであろう。

三、保育上の問題

上に見て来たように、繁華街の子供は落着きがなくなるような条件、生活的地盤をいろいろ備えている。それは単に保育室の中だけで落着きがないというのではなくて、彼らの生活全体にまともまりがない所から来ている。そして又単に組の中の一人や二人の子供の問題ではなくて、全般に共通の傾向である。これらの子供の生活を調整し、放置しておいては得られない生活態度を養ふことが保育室の問題である。(第九表参照)

これは昭和二十九年秋、文部省主催で行なわれた東日本幼稚園研究協議会の第四班「社会環境と生活指導」の実習校として中央区立城東幼稚園において行なわれた研究である。

全国幼稚園・保育所 教員養成課程募集校一覽

— 昭和三十年度 —

▽幼稚園△

- お茶の水女子大学幼稚園教員養成課程
東京都文京区大塚窪町
- 京都女子大学附属幼稚園教員養成所
京都市東山区今熊野比日吉町一七
- 奈良女子大学幼稚園教員養成課程
奈良市比魚西町
- 尚絅女子短期大学
宮城県仙台市中島町
- 郡山女子短期大学
福島県郡山市
- 川村女子短期大学
東京都豊島区目白町二ノ一六四三
- 東洋英和女学院短期大学
東京都港区東鳥居坂町二
- 宝仙学園短期大学
東京都中野区宮前町四六
- 日本女子体育短期大学
東京都世田谷区松原町二ノ七一七
- 柳城女子短期大学
愛知県名古屋市中区和区明月町
- 愛知県立女子短期大学
愛知県名古屋市中区新出来町五丁目
- 華頂短期大学
京都市東山区林下町三ノ四五六
- 平安学院短期大学
京都市上京区下立売通
鳥丸西入り五ノ一七二ノ二
- 大阪キリスト教短期大学
大阪市阿部野区円山通り一ノ八一
- 大阪成蹊女子短期大学
大阪市東淀川区相川中通三
- 浪速短期大学
大阪府天王寺松ヶ鼻町三四
- 大阪市立大学
大阪府南区綿屋町
- 聖和女子短期大学
兵庫県西の宮市岡田山一
- 頌栄短期大学
兵庫県神戸市生田区中山平通六丁目
- 天理大学短期大学部
奈良県山辺郡丹波市町
- 北陸学院保育短期大学
金沢市下本町六ノ二一六
- 純心女子短期大学
長崎県長崎市家野町一七一

○西南学院短期大学部

福岡県福岡市西新町七九八ノ二

○東京高等保育学校

東京都品川区品川五ノ一〇〇二

○聖心学園・東京保育専修学校

東京都杉並区高円寺三ノ二九八

○竹早教員養成所

東京都文京区竹早町八

○財団法人アルウィン学園玉城高等保育学校

東京都杉並区大宮前五ノ二八八

○財団法人聖徳学園高等保育学校

東京都港区芝通新町十三

○東京保育伝習所

東京都文京区原町一〇一

○東京教育専修学校

東京都豊島区目白町二ノ一六八五

○聖徳学園高等保育学校

東京都港区芝通新町一三

○駒沢学園高等保育学校

東京都世田ヶ谷区弦巻町一ノ一二二

○東京幼児教育専修学校

東京都新宿区下落合一ノ五〇〇

○原宿高等保育学校

東京都渋谷区原宿一ノ七〇

○日本音楽学校附設幼稚園教員養成所

東京都品川区豊町二ノ一三二五

○東京保育女子学院

東京都文京区原町一〇一

○市川学園幼稚園教員養成所

市川市八幡町一ノ一八三〇

○埼玉県立幼稚園教員養成所

浦和市常磐町六ノ一埼玉大学内

○横浜聖徳保育学校

横浜市磯子区丸山町四〇

○名古屋化学学園附設幼稚園教員養成所

名古屋市東区白壁町一ノ一〇

○桜花学園高等学校専攻科

名古屋市昭和区緑町一ノ七

○柳城女子学院

愛知学芸大学内

○北星学園幼児教育専修学校

札幌市南五条西一七丁目一三一九

○藤保育専門学校

札幌市北一六条西二丁目二一

○湊学院幼稚園教員養成所

大阪府堺市東湊町一ノ五九九

○常磐会幼稚園教員養成所

大阪市東吉区平野流川二二二二

○箕面学園幼稚園教員養成所

大阪府豊能郡箕面町川向六七七

○陸学園幼稚園教員養成所

神戸市須磨区行幸町二ノ六

○尼崎幼稚園教員養成所

尼崎市難波本町五ノ三〇八

○愛泉幼稚園教員養成所

堺市浅香山町一ノ七

○山陰幼稚園教員養成所

松江市外中原町三

○安田学園幼稚園教員養成所

広島市白鳥中町官有無番地

○岡山県立幼稚園教員養成所

岡山市門田附属学園内

▽保育所△

○北海道立保母養成所

札幌市北十六条西二丁目

○弘前保母養成所

弘前市畠田大野一

○財団法人聖心愛子会聖園女学院保母養成所

秋田市保戸野新町一〇

○宮城県立保母専門学院

仙台市長町字兼野前一五ノ一

○福島県立高等保母学院

福島市上浜町八〇

○茨城県立保育専門学園

水戸市新原町

○群馬県立高等保母学院

群馬県勢多郡木瀬村大字天川大島

○埼玉県立高等保母学院

埼玉県北足立郡与野町大戸六六一

○千葉県立保育専門学院

千葉市作草部町

○東京都立高等保母学院（第一部）

東京都港区筈町

○東京都立高等保母学院（第二部）

東京都港区筈町

○東京保母専修学院

東京都杉並区高円寺三ノ二九八

○白梅保母学園

東京都杉並区馬橋四ノ四九九

○神奈川県立横浜保育専門学校

横浜市南区平楽町一三三

○長野県立保母養成所

長野県諏訪市清水町

○石川県立保育専門学園

石川県金沢市広岡町トの六ノ三

○北陸学院保母養成所

石川県金沢市下本多町六

○名古屋市立保育短期大学

愛知県名古屋市中区白金町三ノ二

○金城学院大学短期大学部家政科児童専修

愛知県春日井郡守山町大森二、二八二ノ二

○中部社会事業短期大学社会事業科保母課程

愛知県名古屋市中区滝川町三一

○滋賀県立保育専門学院

滋賀県彦根市池州町四〇

○大阪府立社会事業短期大学保育課程

大阪市森之宮西三町一

○大阪基督教大学保母養成所

大阪市阿都野区丸山通二ノ五

○大阪成蹊学園保母養成所

大阪市東淀川区相川中通二ノ五

○聖和女子短期大学保育科

兵庫県西宮市岡田山一

○天理短期大学保育科

奈良県山辺郡丹波市町目堂二二三二

○白藤保母学院

奈良県奈良市三条町五四

○島根県立保母養成所

島根県松江市中内原町二五六

○岡山県立保育専門学園

岡山県岡山市津島江養

○広島県立保育専門学院

広島県広島市白馬中町一

○広島県立短期大学家政科児童学専攻

広島県広島市宇品七一〇ノ一

○山口県立女子短期大学家政科

山口県山口市市大字宮ノ下

○徳島県立保母養成所

徳島県名東郡国府村南岩延

○香川県立保母養成所

香川県高松市天神前

予約募集
中乞至急
申込

幼稚園・保育園の必携レコード

幼児のリズム指導に大きな役割！

幼児レコード

—増子とし先生監修—

第一集内容	行進曲 幼児体操 リズム遊び うたあそび	元気なマーチ 足ふみとんとん きしやごっこ おたま杓子は、小さいたね まわれまわれかんらんしや (キンダーブック九集2編5月号掲載)	(B-429)
	リズム遊び たのしい一日	ものまねしましよ あつまり	(B-431)

★ 十吋盤三枚組 ¥600.00 3月20日 発売！

★ 限定数 アルバム付 別冊テキスト添付

即刻最寄りのビクターレコード
特約店にお申込下さい！
尚フレレール館代理店にても御覧致します。

ビクター



レコード



リズム指導用幼児レコード

推薦文

東京都民生局児童部長

紺野利雄

幼児のリズム教育の重要性が唱へられてる今日、教材用として周到な企劃のもとに準備された幼児用レコードの集成、が今回ピクタから発売された事は斯界の為に洵に喜ばしい幼稚園保育園の良き教材として御奨めする。

厚生省母子福祉課長

吉見静江

この度幼稚園、保育園の幼児のために良きリズム音楽の教材レコードが普及されると聞き大変嬉しく存じます。施設も不十分で苦勞される保育者の手となり毎日の保育に美しい音とリズムをレコードにより送り得る事と大変な喜びと存じます。

NHK 教育部長

川上行藏

幼児期の情操を豊にするために、リズム教育が絶対必要なるに不拘、實際面に於ては、指導者はその教材の選定に苦勞しつゝあるのが現在の姿です。この度ピクターから實際面の要望に基き製作されたこのレコードは右の問題の解決に大きく貢献する事と信じ且期待する次第であります。

第二集内容予告

5月20日發賣!

行進曲	ゆつくりあるこう
フォークダンス	母と子のダンス (ホーム・スキート・ホーム)
リズム遊び	ブランコゆれる
うた遊び	雨だればつたんとけい
リズム遊び	ボートにのりませう
たのしい一日	スキップ、スキップ おべんとう

増子とし監修

尙十吋三枚組 定価六〇〇円

○愛媛県立保母養成所

愛媛県松山市道後今市九八二

○高知県立保母養成所

高知県高知市大原町一三二

○福岡県立保母専門学院

福岡市西新町百道

○西南学院短期大学児童教育科

福岡市烏飼六の五〇一

○純心女子短期大学保育科

長崎県長崎市家野町一七一

○自由ヶ丘保育専門学校

大分県別府市北石垣内通寺八二

○京都女子大学短期大学附属保母養成所

京都市東山区今熊野北日吉町一七

○静岡県立静岡保育専門学校

静岡市緑町一三九

○鳥取県立保母養成所

○富山県立保母養成所

幼稚園教員 臨時養成課程学生募集

(昭和三十年度)

お茶の水女子大学

募集人員 約三十名

修業年限 二年

資格 新制高校卒業者又はそれと同等以上の学力があると認められたる女子に限る。

卒業後の特典 幼稚園教員二級普通免許授与

出願期日 昭和三十年三月一日より三月二十日

試験期日 昭和三十年三月二十三日より二十五日

詳細は文京区大塚町三五お茶の水女子大学
学部事務室宛お問い合わせ下さい。

☆幼児教育界におくる
倉橋惣三先生の二著！
幼稚園真諦
B六判一四六頁定価一八〇円
子供讃歌
B六判二三四頁定価二六〇円

倉橋惣三先生が、永年に亘り考究された幼児保育の真のあり方を、体験によるうらづけと、先生の美しい心のままに、平明に描かれた書で、幼児教育にたずさわる先生方が、必ず一度はお読みになつて、ほんとうの意味の幼稚園の理解と、倉橋先生のりっぱな児童観を、会得していただきたいと思ひます。

株式会社 フレーベル館

子供讃歌

B六判一四六頁定価一八〇円

幼稚園真諦

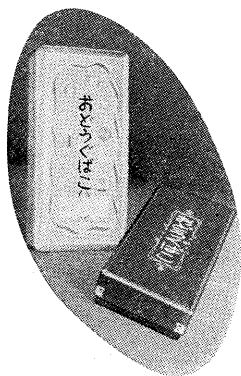
B六判二三四頁定価二六〇円

株式会社 フレーベル館

定評のあるフレーベル館で!!



おさいくちよう



おどろぐばこ

昭和三十年度の新学用品が完成いたしました。昨年より一層よい出来栄えだと、自負いたしております。幼児になじみぶかい、くだもの花の観察をあわせ編集した出席カード、美しく楽しい装幀のおさいくちよう・じゆうがちょう、内容を特に吟味したおりがみ・くれよんなど、いずれも幼児教育にはなくてはならないフレーベル館の新学用品です。なお、右のほか別記の通り、いろいろと取揃えてございます。お申込みは、フレーベル館または代理店へ!



じゆうがちょう

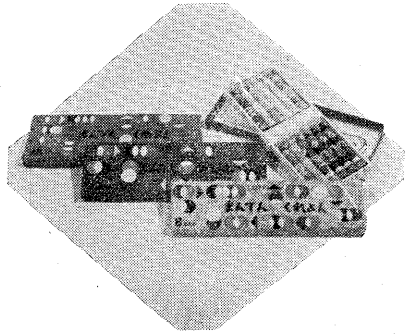
番 号 品	品 名
四七	園 籍 簿(用紙)
七二	出 席 簿(用紙)
四八	身体検査表(用紙)
四五	保育日誌(A)(用紙)
四六	保育日誌(B)(用紙)
四一	幼児指導要録(用紙)
五三	卒園台帳(用紙)
四三	児 童 票(用紙)
五六	保育証書(大)(A)
五四	保育証書(大)(B)
五七	保 育 証 書(小)
六二	賞 状 用 紙
五八	園児募集ポスター(A)
五九	園児募集ポスター(B)
六〇	園児募集ポスター(C)
五〇	園 の た よ り
五一	つうえんブック

幼稚園・保育所の新学期用品は

番号	品名
七五	綴込表紙
一〇一	出席カード
一〇三	出席カード用貼紙
五五	保育料袋
一一九	おさいく帳(大)
一一八	おさいく帳(小)
一一一	ぬりえ(初級)
一一二	ぬりえ(上級)
一二五	自由画帳(特大)
一二六	自由画帳(A)
一二七	自由画帳(B)
一二八	自由画帳(C)
一六八	楽しいお仕事(No.1)
一六九	楽しいお仕事(No.2)
一六七	えあそび
七四	出席ゴム印
一六〇	はさみ



園児募集ポスター



まんてんくれよん

番号	品名	色
一五五	まんてんくれよん	12色
一五六	まんてんくれよん	10色
一五七	まんてんくれよん	8色
一五八	お道具箱(木製)	
一五九	お道具箱(紙製)	
一七一	札名別組	赤 黄 緑 桃 白 藤 水 青 橙
→三一	折紙(特製五寸)	紙
一三二	折紙(特製四寸)	紙
一三三	折紙(並製五寸)	紙
一三四	折紙(並製四寸)	紙

春の日ざしらしい気配が何となく感ぜられるようになって来た。日も一日一日と長くなり、まだ明るいと思つて仕事をしている、いつの間にか夕食の時間も近づいている。春の近づくのを待ちつつ仕事をするのは楽しいことである。

今月は新学期の計画を立てるに備えて組編成のいろいろについて、それぞれの方法をとつておられる実際経験者から、その得失について、実際の経験をまとめていただいた。組の構成をいかにするかはいわば政治である。人は政治だけによつて律せられるものではないが政治が人の行動の枠をきめる場合もある。保育室の政治も、どこにその軽重がおかれるかを考え、実際のな功罪をも考慮して、工夫せねばならぬものである。子供にとつては自分の属する組なり保育室なりは、活動の本拠となる場所である。そこにいかに落着いて安住するこ

編集後記

とが出来、どのような種類の経験をどのように豊富に得ることが出来るかということが問題である。これを更につきつめてゆけば保育内容の問題にあり、幼児にとつてどのような経験環境を構成するかが、研究すべき重要な分野となる。今後幼児教育の研究課題は大きい。土屋氏の問題児の成長は問題児にぶつかった時に、長期に亘る洞察眼の必要なことを教えてくれる。軽々に問題児というレッテルを貼つて一人の子供を特殊視することの危険は更めて云うまでもなからう。

×
×
×

幼児の教育 第五十四巻 第三号

定価金五十円

昭和三十年二月二十五日印刷

昭和三十年三月一日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉橋惣三
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

○本誌御購読についての御注文は発売所
フレーベル館にお願いします。